

令和6年度

『Trailblazer Kids』

北海道認定 AT ガイドによるガイド人材裾野拡大事業

実施報告書



令和7年3月17日

国土交通省北海道運輸局

目次

| | |
|------------------------------------|----|
| 1. 事業概要 | 2 |
| 1-1. 事業目的..... | 2 |
| 1-2. 業務概要..... | 2 |
| 1-3. 実施体制..... | 3 |
| 1-4. 実施スケジュール | 4 |
| 2. 実施内容 | 5 |
| 2-1. 子供×AT 体験プログラムの造成・実施 | 5 |
| 2-2. 参加者へのノベルティ等の製作 | 44 |
| 2-3. アンケート及びヒアリング..... | 51 |
| 3. 成果目標と成果指数..... | 80 |
| 3-1. プログラム造成・実施数 | 80 |
| 3-2. 小学生等へのアンケート回収件数..... | 80 |
| 3-3. 今後のガイド人材確保に向けた効果的な施策の提案 | 81 |
| 4. 事業総括 | 83 |
| 4-1. 事業総括..... | 83 |

1. 事業概要

1-1. 事業目的

2023年9月、北海道札幌市を中心に、アドベンチャートラベル（以下「AT」という。）の世界最大の商談会であるアドベンチャートラベル・ワールドサミット北海道・日本（以下、「ATWS2023」という。）が開催され、世界64の国と地域から約770人のAT関係者が参加し好評を得ることができた。またATWS2023にあわせて催行したツアーへの評価も高く、会期終了後のアンケートにおいてもAT旅行地としての日本に期待する声が寄せられており、今後、日本におけるATの需要が一層高まっていくことが期待される。

一方で、アンケートやATWS主催団体であるアドベンチャー・トラベル・トレード・アソシエーション（ATTA）からの評価では、「アクティビティ」×「英語」×「地域の文化・歴史・自然に関する解説力」を兼ね備えた、質の高いATガイドの不足が課題であると指摘されている。ATを志向する観光客の傾向として、旅行を通じて自分自身の変化や視野の拡大、学び等を得ることを目的としており、個々のコンテンツの質の高さは当然として、旅行者それぞれの興味・関心に応じた解説やストーリー性のある滞在プランの構築など、高い対応力のガイドを求めていることが挙げられている。また、ガイドへの評価はツアー全体の満足度に直結するため、質の高いATガイド人材の継続的な確保・育成が重要であり、職業としてのATガイドの認知度向上にむけた取組が重要である。

そのため本事業では、日本唯一の知事認定制度である「北海道アドベンチャートラベルガイド」と観光業界を志望する学生が協力し、今後の地域社会の担い手である北海道内の子ども達が安全にATに参加できるような、満足度の高いプログラムを造成・実施する。

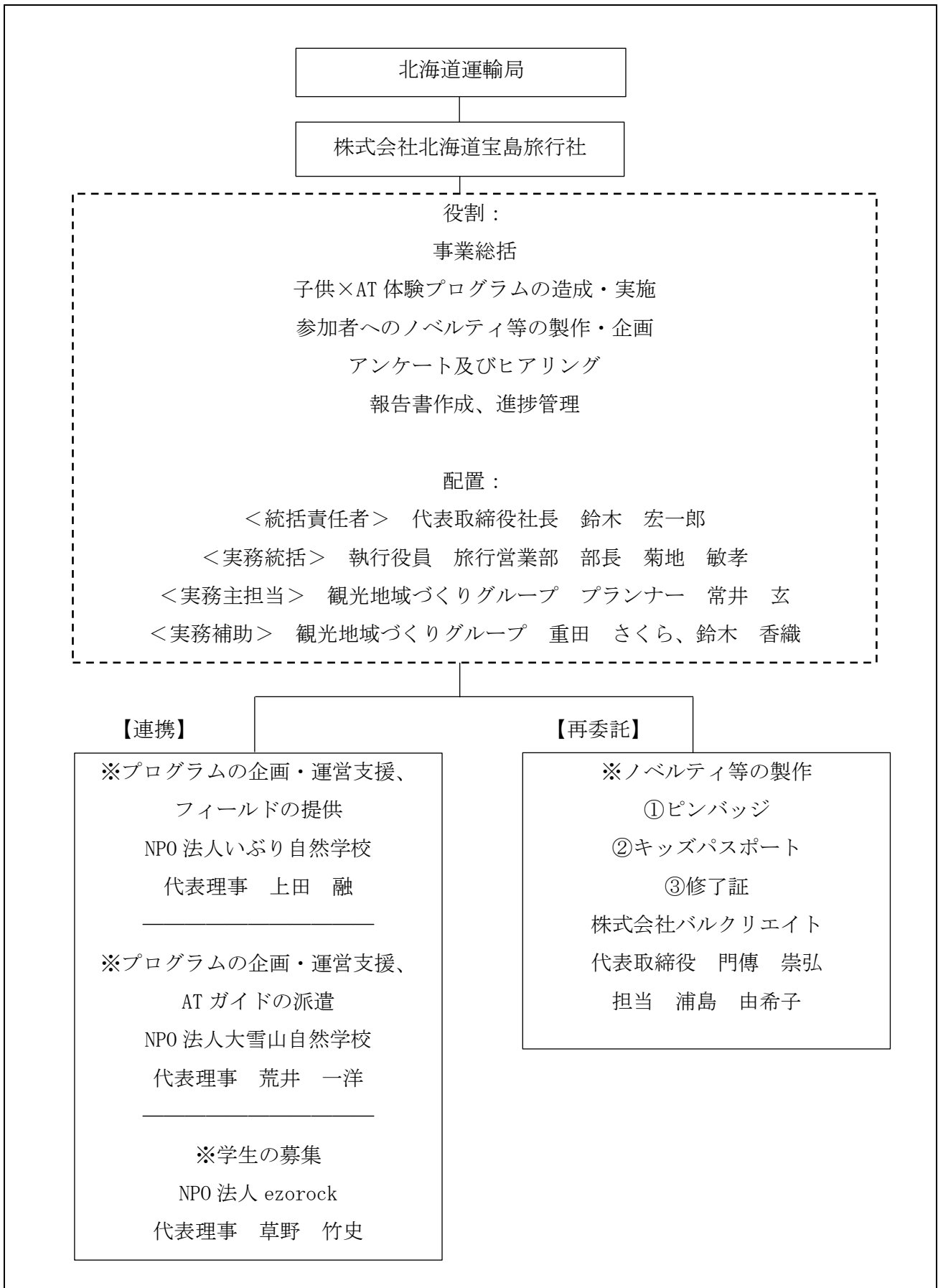
このプログラムを通じてATを体験することで、自分たちの住む北海道の豊かな自然や多様な文化の魅力に触れてもらうと共に、ATガイドという職業を知ってもらい、ATの実践が子供達の地域理解と愛着の向上に寄与するか、職業選択におけるATガイドの志向性を向上させ得るかを検証する。

1-2. 業務概要

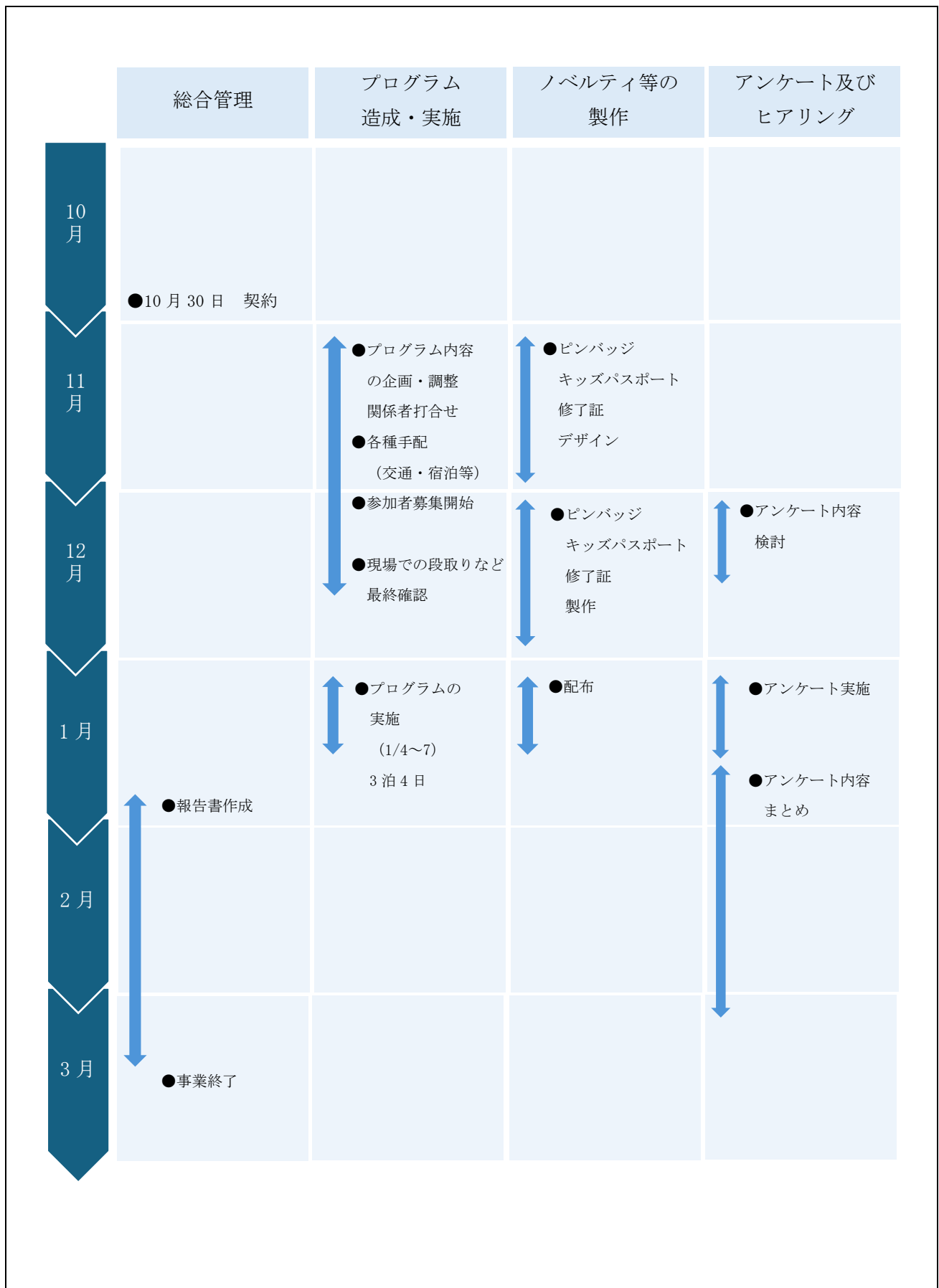
上記の事業目的を達成するため、下記内容にて業務を実施した。

- (1). 子供×AT体験プログラムの造成・実施
- (2). 参加者へのノベルティ等の製作
 - ① ピンバッジの製作
 - ② キッズパスポートの製作
 - ③ 修了証の製作
- (3). アンケート及びヒアリング

1-3. 実施体制



1-4. 実施スケジュール



2. 実施内容

2-1. 子供×AT 体験プログラムの造成・実施

<実施前>

・プログラム案の作成

プログラムの造成にあたって、関係者間での意見交換を下記の通り行った。

日時：令和6年11月12日（火）21：00～22：00

方法：オンラインシステム Zoom 利用

参加者：NPO 法人大雪山自然学校 代表理事 荒井 一洋

NPO 法人いぶり自然学校 代表理事 上田 融

(株)北海道宝島旅行社 執行役員 菊地 敏孝

(株)北海道宝島旅行社 プランナー 常井 玄

[内容]

- (1) 開催日について
- (2) プログラム実施にあたってのメインテーマ、コンセプトについて
- (3) メインテーマ、コンセプトに沿った各コンテンツ及び各論について

打合せの結果、プログラム実施にあたってのメインテーマ、コンセプトを、北海道に暮らす小学生として動物との触れ合いや森での作業を通じた自然体験活動の中で、普段の生活の中とは違った新たな物事に挑戦できる機会の提供とする、ということで意見が一致した。

また、アドベンチャートラベルガイドという言葉だと概念として抽象的であるため、子供たちにより興味を持ってもらえるよう、例えば「アドベンチャートラベルガイドが普段の仕事で使う7つ道具の紹介」といった形で、具体的な事柄を参加する子供たちに見せることで、アドベンチャートラベルガイドへの興味を深めてもらう手法を取ることで意見が一致した。



(画像：実際にプログラム内で普段のガイディングに使用する道具を紹介する荒井氏)

・参加者募集チラシの作成

北海道内在住の小学4年生～6年生に向けた参加者募集チラシを作成し関連施設への掲示や、データでの拡散を行った。

チラシ作成期間：令和6年11月5日～11月21日（完成・募集開始）



北海道アドベンチャートラベルガイドと行く！

Trailblazer Kids

～道を切り拓く子どもたち～

冬の森暮らし 4日間

定員 15名
※応募多数の場合は抽選

日本唯一の知事認定制度である「北海道アドベンチャートラベルガイド」とイコロの森を舞台に野外活動を行います。北海道の豊かな自然や文化に触れながら、自分達で考え、仲間と想いを共有し、未来を切り拓くためのチャレンジを楽しむ3泊4日のプログラムです。

令和7年 1月4日(土)～7日(火)

| | |
|------------|---|
| 場所 | イコロの森 苫小牧市植苗565-1 |
| 対象 | 小学4～6年生 北海道内在住 |
| 費用 | 無料 ※アンケートへの回答が参加の条件となります ※集合場所までの交通費は各自負担となります |
| 申込み | 令和6年12月6日(金) 12:00 〆切 右記の二次元コードからお申込みください。 事務局からご入力いただいたメールアドレスにご連絡いたします。 → https://forms.gle/s8QwbYwpkcbuMaEv9 |

北海道知事認定 アドベンチャートラベルガイド
荒井 一洋氏 (NPO法人大雪山自然学校 代表理事)

1977年生まれ、札幌市出身。ニュージーランドLincoln Universityでは国立公園管理と自然保全を専攻し、北海道大学大学院では観光創造専攻で学ぶ。ガイド歴25年。趣味は小さな焚火とテレマックスキー。2001年から東川町にて「大雪山自然学校」を設立し、エコツアーや子供自然体験活動を実施。NPO法人日本エコツーリズムセンター理事、アジアエコツーリズムネットワーク理事、北海道アドベンチャートラベル協議会長。



【主催】
国土交通省北海道運輸局観光部

【事務局・お問い合わせ】
株式会社北海道宝島旅行社 (担当：菊地・常井・重田)
TEL：011-252-2115 Mail：at-info@hokkaido-takarajima.com

施設情報

イコロの森・森の学校
苫小牧市植苗565-1



イコロの森の情報はコチラから



外観



2階 就寝スペース



ラウンジスペース



トイレ 洗面台

活動内容

❄️ 北海道らしい冬の森暮らしを
自分たちの手で割り出そう ❄️

例えば・・・

- ・冬の森で遊ぶ
- ・自分で薪を割って森で焚火をする
- ・焚火を使って食事をつくる
- ・動物（鳥やにわとりなど）の世話をする
- ・馬を使って森の手入れをする（馬糞）
- ・冬の美々川での冒険川下り（ダッキー）など

他にも、挑戦したいことがあったら、話し合いをして決めます。

主な持ち物

- 衣服（着替え・防寒着・スキューエア上下）
- 防寒手袋（防寒用ゴム手袋が最適）、帽子、スノーシューズ
- 懐中電灯・ヘッドランプ（予備電池）
- 歯ブラシ等の洗面用具
- タオル
- リュック
- 初日昼食弁当／水筒
- 保険証写し
- 常備薬や酔い止め

スケジュール

| 日程 | 時間 | 主な活動 | |
|------------------|------------------|--------------------|------|
| DAY 1 1月4日（土） | 10:30 | 札幌駅北口集合・出発 ※専用車で移動 | |
| | 12:00 | イコロの森到着 | |
| | | 昼食 ※各自持参 | |
| | 13:00 | 開会式・オリエンテーション | |
| | 14:00 | 「今日の森暮らし」 | |
| | 17:00 | アイスブレイク | |
| | 18:00 | 夕食 | |
| | 19:00 | 入浴 ※なごみの湯を予定 | |
| | 20:30 | 今日の振り返り | |
| | 21:00 | 就寝 | |
| DAY 2 1月5日（日） | 6:00 | 朝の活動 | |
| | 7:30 | 朝食 | |
| | 9:00 | 「今日の森暮らしⅠ」 | |
| | 12:00 | 昼食 ※焚火調理 | |
| | 13:00 | 「今日の森暮らしⅡ」 | |
| | 18:00 | 夕食 | |
| | 19:00 | 入浴 | |
| | 20:30 | 今日の振り返り | |
| | 21:00 | 就寝 | |
| | DAY 3 1月6日（月） | 6:00 | 朝の活動 |
| 7:30 | | 朝食 | |
| 9:00 | | 「今日の森暮らし」 | |
| 11:00 | | 活動の振り返り | |
| 12:00 | | 昼食（サンドイッチを予定） | |
| 13:00 | | 開会式（修了証授与） | |
| 14:00 | | イコロの森出発 | |
| 15:30 | | 札幌駅北口到着・解散 | |
| DAY 4 1月7日（火） | | 6:00 | 朝の活動 |
| | | 7:30 | 朝食 |
| | 9:00 | 「今日の森暮らし」 | |
| | 11:00 | 活動の振り返り | |
| | 12:00 | 昼食（サンドイッチを予定） | |
| | 13:00 | 開会式（修了証授与） | |
| | 14:00 | イコロの森出発 | |
| | 15:30 | 札幌駅北口到着・解散 | |

◆注意事項◆

- 安全については万全を期しますが、本プログラムは野外での活動を含みますので、傷や捻挫などのケガを負う場合があります。同行するスタッフの指示に従い、参加者自身も安全な行動を心がけてください。万が一病気やケガが発生した場合は、症状・状況に応じて同行スタッフの判断で対応いたします。なお、スタッフは応急処置の訓練を受けた有資格者です。また、事務局にて保険に加入いたしますので、この保険の限度額にて対応いたします。
- 個人情報保護について
 - 参加申込書、同意書、保険証写しについては、事務局で管理いたします。
 - プログラム開催中にテレビ、新聞などの取材がある場合がございます。
 - プログラム開催中に撮影した写真、動画などにつきましては、主催者側で事業活動報告のために使用する場合がございます。但し、参加者の同意を得た者以外の第三者に氏名、年齢、住所等の個人情報は提供、開示等一切いたしません。
- 持ち物の紛失、破損（汚れを含む）については責任を負いかねます。
- 天災やその他の理由により主催者側で安全にプログラムが実施できないと判断した場合は、中止とさせていただきます。
- 申し込み後にキャンセルが発生した場合は、必ずご連絡ください。

◆オンライン保護者説明会の開催◆

参加者決定後、以下の日程でオンライン保護者説明会の開催を予定しております。

- ①令和6年12月14日（土） 19:00～
- ②令和6年12月21日（土） 19:00～

開催方法：Google Meet

ご参加希望の方は申込フォームにて希望日を選択してください。URL等の詳細は、参加正式決定後にお知らせいたします。

・応募フォームの作成

参加者募集チラシでプログラム内容を周知し、申込先としてのオンラインフォームの作成を行った。オンラインフォームについては比較的参加申し込みを行う層の方々が使い慣れていると想定される Google フォームを使用した。

フォーム作成期間：令和6年11月20日～11月21日（完成・使用開始）

URL：<https://forms.gle/qgmzL84FkDd5NafV7>

応募フォーム_北海道アドベンチャートラベルガイドと行く！冬の森暮らし4日間

参加を希望される場合は、下記の必要事項の入力により、応募をお願いします。

ご記入内容を確認の上、事務局よりご連絡いたします。

【個人情報保護について】
ご入力いただきましたお客様の情報は、お申し出いただいた内容の確認、並びにお客様への回答等、本事業にかかる必要な範囲でのみ使用させていただきます。

【事業主体及びお問い合わせ】
国土交通省北海道運輸局 観光部
事務局（株式会社北海道宝島旅行社内）
担当：常井（とこい）、重田（しげた）
TEL：011-252-2115 / E-mail: tokoi@hokkaido-takarajima.com

tokoi@hokkaido-takarajima.com アカウントを切り替える

共有なし

* 必須の質問です

参加者（お子様）の氏名 *

回答を入力

ふりがな *

回答を入力

学年 *

回答を入力

学校名 *

回答を入力

性別 *

- 男性
- 女性
- その他

参加者生年月日（保険加入で使します） *

日付

年 / 月 / 日 □

保護者の名前 *

回答を入力

住所 *

保護者連絡先（携帯電話） *

回答を入力

保護者連絡先（一番連絡が取れるメールアドレス） *

回答を入力

食物アレルギー *

- あり
- なし

食物アレルギー「あり」の方、ご記入ください

回答を入力

札幌駅発着の貸切送迎バス利用希望の有無*

- 利用希望
- 利用しない (=イコロの森現地集合)

保護者説明会への参加・不参加について ※オンラインでの実施を予定しております

- 12/14 (土) 19:00~
- 12/21 (土) 19:00~
- 不参加

その他、自由記述欄

回答を入力

送信

フォームをクリア

・学生の募集

地域づくりに取り組む意欲のある学生に対してネットワークを持つ NPO 法人 ezorock を通じて、AT ガイドの補助としてプロジェクトに参加する学生の募集を行った。最終的に関係者からの紹介を含めた 3 名（男性 1 名、女性 2 名）が学生ボランティアとして参加することとなった。（北海学園大学経営学部経営学科 2 年、北海道文化服装専門学校 2 年、東海大学 1 年）

[NPO 法人 ezorock 団体概要]

団体名：特定非営利活動法人 ezorock

設立年月：2013 年 4 月 1 日（法人格取得） ※任意団体は 2001 年 4 月 1 日より

代表理事：草野 竹史 職員：6 名

所在地：札幌市中央区南 9 条西 3 丁目 1 番 7 号

事業内容：ボランティアマッチングに関する事業

プロジェクトコーディネートに関する事業

人材育成に関する事業

青年層による自発的な取り組みを支援する事業

・プログラム実施に向けた下見及び現地確認、打合せの実施

<1回目>

日時：令和6年11月25日（月）10：00～11：30

場所：いぶり自然学校 フィールド（イコロの森内）

参加者：NPO 法人いぶり自然学校 スタッフ 八木 一馬

北海道運輸局 小池 樹里

北海道運輸局 山田 祐太郎

(株)北海道宝島旅行社 執行役員 菊地 敏孝

(株)北海道宝島旅行社 プランナー 常井 玄

[内容]

- (1) フィールドの確認
- (2) 施設設備等についての確認



(画像：施設見学の様子)

<2回目>

日時：令和6年12月24日（火）10：30～12：00

場所：いぶり自然学校 フィールド（イコロの森内）

参加者：NPO 法人いぶり自然学校 代表理事 上田 融

NPO 法人いぶり自然学校 スタッフ 八木 一馬

学生ボランティア 板垣 圭哉（北海学園大学経営学部経営学科2年）

北海道運輸局 小池 樹里

北海道運輸局 山田 祐太郎

(株)北海道宝島旅行社 プランナー 常井 玄

[内容]

- (1) フィールドの確認
- (2) 施設設備等についての確認
- (3) 当日の役割についての確認



(画像：現地確認の様子)

・参加申込書、同意書の作成

子供たちの参加にあたって、注意事項の案内や確認事項の把握を行うための参加申込書、同意書を作成し、参加者に事前に記入を依頼し提出頂いた。

<参加申込書>

「北海道アドベンチャートラベルガイドと行く！冬の森暮らし4日間」
参加申込書

記入日：令和 年 月 日

| | | | |
|--|----------|----|--------|
| フリガナ | | | |
| 氏名 | | | |
| 生年月日 | 平成 年 月 日 | 性別 | |
| フリガナ 保護者氏名 | (続柄：) | | |
| メールアドレス | @ | | |
| 緊急連絡先 | (氏名) | | (続柄：) |
| | (連絡先) | | |
| 住所 | 〒 - | | |
| 持病やアレルギー、 常用している薬、 懸念事項などあれば ご記入ください。 | | | |

【主催】 国土交通省北海道運輸局観光部

【事務局・お問い合わせ】

株式会社北海道宝島旅行社（担当：菊地・常井・重田）

〒060-0052 札幌市中央区南2条東2丁目8-1 大都ビル9階

TEL：011-252-2115 Mail：at-info@hokkaido-takarajima.com

<同意書>

「北海道アドベンチャートラベルガイドと行く！冬の森暮らし4日間」
に参加される方へ、お願いとご確認

(同 意 書)

1. 活動中の事故・ケガなどについて

安全については万全を期しますが、本プログラムは野外での活動を含みますので、傷や捻挫などのケガを負う場合があります。同行するスタッフの指示に従い、参加者自身も安全な行動を心がけてください。万が一病気やケガが発生した場合は、症状・状況に応じて同行スタッフの判断で対応いたします。なお、スタッフは応急救護の訓練を受けた有資格者です。また、事務局にて保険に加入いたしますので、この保険の限度額にて対応いたします。

【傷害保険】

死亡・後遺障害 15,000千円(1500万円)

入院見舞費用 入院日数180日以上 200千円(20万円)、入院日数90日以上180日未満 100千円(10万円)

入院日数7日以上90日未満 50千円(5万円)、入院日数7日未満 20千円(2万円)

通院見舞費用 通院日数90日以上 50千円(5万円)、通院日数7日以上90日未満 25千円(2.5万円)

通院日数3日以上7日未満 10千円(1万円)

<保険会社> ジェイアイ傷害火災保険株式会社(東京都中央区晴海一丁目8番10号)

2. 個人情報・プライバシーの保護について

・プログラム開催中に撮影しました写真、動画などにつきましては主催者側で事業活動報告のために使用する事がございます。撮影は原則主催者のみ行います。予めご了承ください。ただし、氏名・住所は掲載・公開いたしません。

・プログラム期間中にテレビ、新聞などの取材がある場合もございます。その際には氏名などが掲載される場合もございます。予めご了承ください。

※ 写真、ビデオ等の使用に際し、不都合のある方は予め事務局迄ご連絡ください。

上記肖像の取り扱いについて、差支えなければ☑をお願いいたします。

写真・動画の使用は差し支えありません

上記1~2に同意して、活動に参加いたします。

(署名)

_____ 令和 年 月 日

【主催】 国土交通省北海道運輸局観光部

【事務局・お問い合わせ】 株式会社北海道宝島旅行社(担当:菊地・常井・重田)

・保護者説明会の実施

プログラムの実施にあたり、事前の保護者の不安等の解消を目的とした保護者説明会を実施した。実施方法は参加者が参加しやすいよう、オンラインでの実施とした。

日時：令和6年12月14日（土）19：00～20：00

方法：オンラインシステム Google Meet 利用

参加者：保護者

NPO 法人いぶり自然学校 代表理事 上田 融

学生ボランティア 板垣 圭哉（北海学園大学経営学部経営学科2年）

北海道運輸局 小池 樹里

北海道運輸局 山田 祐太郎

㈱北海道宝島旅行社 執行役員 菊地 敏孝

㈱北海道宝島旅行社 プランナー 常井 玄

[内容]

- (1) 主催者挨拶
- (2) スタッフ紹介
- (3) 概要説明（スケジュール、活動内容、持ち物、施設情報など）
- (4) 質疑応答

[資料]

北海道アドベンチャートラベルガイドと行く！

Trailblazer Kids

～道を切り拓く子どもたち～

冬の森暮らし4日間

保護者説明会（オンライン）

日時：2024年12月14日（土）19：00～

本日の次第

1. 主催者挨拶 (5分)
2. スタッフ紹介 (10分) 運営スタッフの自己紹介及び役割の説明
3. 概要説明 (15分) スケジュール、活動内容、持ち物、施設情報などについての説明
4. 質疑応答 (25分)
5. その他 (5分)

1

2. スタッフ紹介

| | 氏名 | 所属・役職等 | 役割 |
|---|-------------------------|--------------------|-------------------|
| 1 | 荒井 一洋 | NPO法人大雪山自然学校 代表理事 | ATガイド、全体運営の指揮 |
| 2 | 上田 融 | NPO法人いぶり自然学校 代表理事 | 施設管理者 (兼 ローカルガイド) |
| 3 | いぶり自然学校スタッフ 八木 一馬・吉田 | NPO法人いぶり自然学校 スタッフ | 施設管理、サポート |
| 4 | 板垣 圭哉 | 北海道大学経営学部経営学科 2年 | 運営サポート (学生) |
| 5 | 泉 綾乃 | 北海道文化服装専門学校 2年 | 運営サポート (学生) |
| 6 | 菊地 敏孝 | 株式会社北海道宝島旅行社 執行役員 | 事務局 |
| 7 | 常井 玄 | 株式会社北海道宝島旅行社 プランナー | 事務局 |

4

2. スタッフ紹介



■活動報告 なんでもやってみようキ
ャンプ (8月6日~8日実施)

自然体験プログラム(イネティくらぶ)

役割：ATガイド、全体運営の指揮

北海道知事認定アドベンチャートラベルガイド

荒井一洋氏 (NPO法人大雪山自然学校 代表理事)

1977年生まれ、札幌市出身。
ニュージーランドLincoln Universityでは国立公園管理と自然保全を専攻し、北海道大学大学院では観光創造専攻で学ぶ。ガイド歴25年。趣味は小さな焚火とテレマークスキー。2001年から東川町にて「大雪山自然学校」を設立し、エコツアーや子供自然体験活動を実施。

- ・NPO法人日本エコツーリズムセンター理事
- ・アジアエコツーリズムネットワーク理事
- ・北海道アドベンチャートラベル協議会長

<主な保有資格>

- ・北海道知事認定 アウトドアガイド資格 (自然)
- ・野外災害救急法 Wilderness Advanced First Aid

5

2. スタッフ紹介

役割：施設管理者（兼ローカルガイド）



馬と生活キャンプ



6月1(土)~2(日)
動物たちのお世話をしながら、動物たちと過ごそう。夜は動物の近くにテントを張って夜の姿を観望しよう。
参加費：15,000円(税別)
(非会員+1,000円)

ウィンタースクール



12月26.27.28日
1月10.11.12日
日曜日
冬を待つ遊び、防寒対策したり動物のお世話をしたり出来ることば山荘。
参加費 5,000円(税別)

上田 融氏（NPO法人いぶり自然学校 代表理事）

1973年生まれ。岐阜県出身。
1996年より北海道の小学校で6年間勤務。
2002より4年間、登別市教育委員会社会教育グループで社会教育主事として、ふおれすと鉱山の運営に携わる。2006年よりNPO法人ねおすの活動へ参画し、道内各地の自治体と協働し、第一次産業の取り組みを子どもたちに体験的に伝え、学ばせるプログラム開発および協議体の設立に関わる。
2008年より苫東・和みの森運営協議会副会長。2015年より現職。プロジェクト・ワイルドファシリテーター、小学校教諭1種、幼稚園教諭1種等の資格を持つ。

<主な保有資格>
・プロジェクト・ワイルドファシリテーター
・小学校教諭1種
・幼稚園教諭1種
・社会教育主事

6

3. 概要説明

8

3. 概要説明 スケジュール・活動内容

【活動の前提】

- ①正しい生活リズム 「北海道らしい冬の森暮らし」
 - ・薪ストーブによる採暖
 - ・森の整備と薪割り、食事づくり
 - ・動物の世話
 - ・除雪
- ②少し自分を試す 「チャレンジバイチョイス」
 - ・どれをやってもいい、どれもやっていい、どれもやらなくていい、どこか行く時は一声かけて
 - ・暮らしに余裕が生まれたら、やりたいことをやる
 - ・挑戦してみたいことがあったら、話し合いで決める

9

3. 概要説明 スケジュール・活動内容

1日目 ■送迎(ス利用組 10:30 札幌駅北口 集合 (11名)
■現地集合組 12:00 イコロの森 集合 (3名)

1月4日
(土曜日)

| 日時 | 活動内容 |
|-------|---|
| 12:00 | イコロの森到着 |
| 13:00 | 開会式 オリエンテーション、ハウスルール チェックイン/昼食(持参弁当) |
| 14:00 | 導入1「まずは遊ぶ」 ・外回りの確認(動物の位置、全体ロケーション) |
| 16:00 | 動物の世話 濡れた服や長靴を干して乾かす |
| 17:00 | 活動1「自己紹介タイム」 ・自己紹介、アイスブレイク ・翌日のスケジュール確認 |
| 18:00 | 夕食 |
| 19:00 | 入浴 |
| | 就寝準備 |
| 21:00 | 就寝 |

10

3. 概要説明 スケジュール・活動内容

2日目

1月5日
(日曜日)

| 日時 | 活動内容 |
|-------|---|
| 6:00 | 動物の世話 薪ストーブの点火 |
| 7:30 | 朝食 寝具の片付け、身支度 |
| 9:00 | 活動2「今日の森暮らし1」 ・森林整備内容を伝える ・馬糞(馬を使った森の手入れ) ・薪割り ・自由に遊ぶ、もOK |
| 11:00 | 動物の世話 |
| 12:00 | 昼食 |
| 13:00 | 動物の世話 ・今日の振り返り ・明日のスケジュール確認 |
| 18:00 | 夕食 |
| 19:00 | 入浴 |
| | 就寝準備 |
| 21:00 | 就寝 |

11

3. 概要説明 スケジュール・活動内容

3日目

1月6日
(月曜日)

| 日時 | 活動内容 |
|-------|---|
| 6:00 | 動物の世話 薪ストーブの点火 |
| 7:30 | 朝食 寝具の片付け、身支度 |
| 9:00 | 活動2「今日の森暮らし2」 ・森林整備内容を伝える(薪割りなど) ・動物の世話に関する作業(柵の修理など) ・自由に遊ぶ、もOK ・何をやりたいか、話し合いをして活動を定める |
| 11:00 | 動物の世話 |
| 12:00 | 昼食 |
| 13:00 | 動物の世話 ・今日の振り返り ・明日のスケジュール確認 |
| 18:00 | 夕食 |
| 19:00 | 入浴 |
| | 就寝準備 |
| 21:00 | 就寝 |

12

3. 概要説明 スケジュール・活動内容

| 4日目 | 日時 | 活動内容 |
|---------------|-------|--|
| 1月7日 (火曜日) | 6:00 | 動物の世話 薪ストーブの点火 |
| | 7:30 | 朝食 寝具の片付け、身支度 |
| | 9:00 | 活動2「今日の森暮らし3」 ・全員で片付けと掃除 ・自分の荷物を整理する ・それが終われば、自由遊び、自由活動 ・何をやりたいか、話し合いをして活動を決める |
| | 11:00 | 活動の振り返り① ～アドベンチャートラベルガイドより |
| | 12:00 | 昼食 |
| | 13:00 | 活動の振り返り② ～できたこと、身に着いたこと、今度はこうしたい |
| | | 修了証 |
| | 14:00 | 出発 |
| | | ■送迎バス利用組 15:30 札幌駅北口 解散 (11名) |
| | | ■現地集合組 14:00 イコロの森 解散 (3名) |

13

3. 概要説明 スケジュール・活動内容

札幌駅 集合・解散場所 午前10:30

※集合場所にて、
弊社社員が「冬の森暮らし4日間」と
書いたボードを持ってお待ちしております



14

3. 概要説明 食事内容

| | | |
|---------|----|--|
| 1/4 (土) | 昼食 | 各自が持参したお弁当 |
| | 夕食 | カレー 野菜サラダ (レタス、トマト、きゅうり、水菜、他) |
| 1/5 (日) | 朝食 | ホットサンド (ひき肉 卵 レタス トマト) コンソメスープ 果物 牛乳 |
| | 昼食 | おにぎり、けんちん汁、野菜サラダ (レタス、トマト、きゅうり、水菜、他) |
| | 夕食 | ご飯、豚汁、惣菜2品 |
| 1/6 (月) | 朝食 | ホットサンド (ハムまたはベーコン 卵 レタス トマト) コンソメスープ 果物 牛乳 |
| | 昼食 | スパゲティミートソース 卵スープ 野菜サラダ |
| | 夕食 | シチュー ご飯 野菜サラダ |
| 1/7 (火) | 朝食 | ご飯、味噌汁、惣菜3品 |
| | 昼食 | 検討中 |

※食事内容については変更の可能性もあります。

15

3. 概要説明 持ち物

【必要なもの】

- 衣服（着替え・防寒着・スキューア上下）
 - 防寒手袋（防寒用ゴム手袋が最適）、帽子、スノーシューズ
（手袋は、外の活動で濡れることもあるので、2セットあるとより良い。乾かしておく時間が確保できるので）
 - 懐中電灯・ヘッドランプ（予備電池）
（入浴後の駐車場から建物への歩く際などに使用する想定。ヘッドランプの方が、手が空くので望ましい）
 - 歯ブラシ等の洗面用具
 - タオル
 - リュック
リュックの用途：入浴施設や、野外での活動の際に、水筒や、タオルなどを入れられる、かつ、両手が空くような小さなリュック
 - 初日昼食弁当／水筒
 - 保険証写真
 - 常備薬や酔い止め
- ※薬の服用に関しては、各自での管理をお願いします。
- ・施設内で履く外靴（例 クロックス）
 - ・ビニール袋
 - ・ポケットティッシュ
 - ・コップ、スプーン、箸
 - ・歯磨き用のコップ

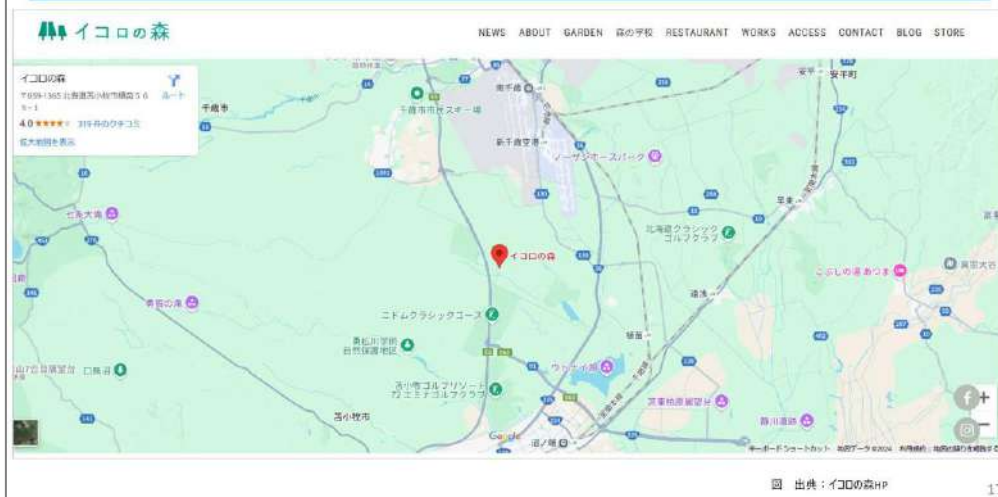
【持ってきてもよい物】

- ・お菓子、あめ、ガム類
- 【持ってきてはいけない物】**
- ・携帯電話
 - ・小型携帯テレビ、ヘッドホンステレオ類
 - ・貴重品（時計など高価なものやなくして困るようなもの）
 - ・マッチ、ライター、ナイフ類
 - ・ゲーム機（個人で遊べてしまえるもの）

※バストイレ、シャンプー等に関して入浴施設（なごみの湯）でバストイレ・シャンプー等はレンタルするので、持参不要です。

16

3. 概要説明 施設情報



17

3. 概要説明 施設情報

イコロの森
GUIDE MAP
園内マップ

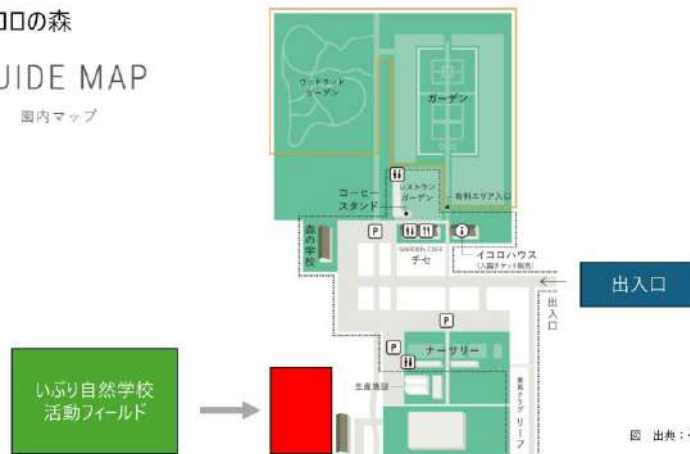


図 出典：イコロの森HP

18

3. 概要説明 施設情報



イコロの森 管理棟 (外観)

19

3. 概要説明 施設情報



(ラウンジスペース1)



(ラウンジスペース2)

いぶり自然学校 2024年11月25日 撮影

20

3. 概要説明 施設情報



(寝室スペース 1)



(寝室スペース 2)



(寝室スペース 3)

いぶり自然学校 2024年11月25日 撮影

21

3. 概要説明 施設情報



(お手洗い 1)



(お手洗い 2)



(お手洗い 3)

いぶり自然学校 2024年11月25日 撮影

22

3. 概要説明 施設情報



(動物 馬)



(動物 羊)

いぶり自然学校 2024年11月25日 撮影

23

3. 概要説明 施設情報



(森暮らしの道具 例 馬具)



(管理棟すぐ裏の森)

いぶり自然学校 2024年11月25日 撮影

24

3. 概要説明 施設情報



いぶり自然学校 2024年11月25日 撮影

25

3. 概要説明 お願いとご確認

1. 活動中の事故・ケガなどについて

安全については万全を期しますが、本プログラムは野外での活動を含みますので、傷や捻挫などのケガを負う場合があります。同行するスタッフの指示に従い、参加者自身も安全な行動を心がけてください。万が一病気やケガが発生した場合は、症状・状況に応じて同行スタッフの判断で対応いたします。なお、スタッフは応急救護の訓練を受けた有資格者です。また、事務局にて保険に加入いたしますので、この保険の限度額にて対応いたします。

【傷害保険】

| | |
|---------|--|
| 死亡・後遺障害 | 15,000千円（1500万円） |
| 入院見舞費用 | 入院日数180日以上 200千円（20万円）、入院日数90日以上180日未満 100千円（10万円） 入院日数7日以上90日未満 50千円（5万円）、入院日数7日未満 20千円（2万円） |
| 通院見舞費用 | 通院日数90日以上 50千円（5万円）、通院日数7日以上90日未満 25千円（2.5万円） 通院日数3日以上7日未満 10千円（1万円） |

<保険会社> ジェイアイ傷害火災保険株式会社（東京都中央区晴海一丁目8番10号）

26

3. 概要説明 お願いとご確認

2. 個人情報・プライバシーの保護について

■個人情報保護について

- ・参加申込書、同意書、保険証写しについては、事務局で管理いたします。
- ・プログラム開催中にテレビ、新聞などの取材がある場合がございます。
- ・プログラム開催中に撮影した写真、動画などにつきましては、主催者側で事業活動報告のために使用する場合がございます。但し、参加者の同意を得た者以外の第三者に氏名、年齢、住所等の個人情報は提供、開示等一切いたしません。

27

3. 概要説明 お願いとご確認

3. 主催者が活動を中止と判断した場合

■天災やその他の理由により主催者側で安全にプログラムが実施できないと判断した場合、中止とさせていただきます。

4. 荷造り等について

- ・荷物の準備はお子さんと一緒にしましょう。
- ・所持品全てに名前を記入しましょう。
- ・着替えは1日ごとに袋に入れると、お子さん本人も把握しやすいです。

28

3. 概要説明 お願いとご確認

5. 保護者の方へお願い

- ・お子様が一時家を離れることになります。ご家庭でも事前に勇気づける言葉をかけてください。また帰宅した日は、お出迎えをお願いします。温かい言葉をかけてください。
- ・持ち物の紛失、破損（汚れを含む）についての責任は負いかねますことを予め承知おさください。

29

<当日の運営>

・参加名簿

申込があったのは下記の14名である。内1名（13番の児童）が体調不良のため、直前で辞退となった。

■参加者（14名→13名）

| 番号 | 学年 | 小学校 | 性別 |
|----|-----|-------|----|
| 1 | 4年生 | 苫小牧市内 | 男性 |
| 2 | 4年生 | 札幌市内 | 男性 |
| 3 | 4年生 | 札幌市内 | 男性 |
| 4 | 4年生 | 苫小牧市内 | 男性 |
| 5 | 4年生 | 苫小牧市内 | 男性 |
| 6 | 4年生 | 札幌市内 | 男性 |
| 7 | 4年生 | 札幌市内 | 女性 |
| 8 | 4年生 | 札幌市内 | 女性 |
| 9 | 4年生 | 小樽市内 | 女性 |
| 10 | 5年生 | 札幌市内 | 女性 |
| 11 | 5年生 | 札幌市内 | 男性 |
| 12 | 6年生 | 札幌市内 | 男性 |
| 13 | 6年生 | 札幌市内 | 男性 |
| 14 | 6年生 | 札幌市内 | 男性 |

■学生サポート（3名）

| 番号 | 氏名 | 学校 | 学年 | 性別 |
|----|-------|-------------|-----|----|
| 1 | 板垣 圭哉 | 北海学園大学 | 2年生 | 男性 |
| 2 | 泉 綾乃 | 北海道文化服装専門学校 | 2年生 | 女性 |
| 3 | 橋本 真央 | 東海大学 | 1年生 | 女性 |

■運営スタッフ（7名）

| 番号 | 氏名 | 所属・役職等 | 役割 |
|----|-------|--------------------|-----------|
| 1 | 荒井 一洋 | NPO 法人大雪山自然学校 代表理事 | 全体進行 |
| 2 | 上田 融 | NPO 法人いぶり自然学校 代表理事 | 施設運営 |
| 3 | 八木 一馬 | NPO 法人いぶり自然学校 スタッフ | プログラム運営 |
| 4 | 吉田 誠 | NPO 法人いぶり自然学校 スタッフ | プログラム運営 |
| 5 | スタッフ | NPO 法人いぶり自然学校 スタッフ | プログラム運営補助 |
| 6 | 菊地 敏孝 | (株)北海道宝島旅行社 執行役員 | 事務局 |
| 7 | 常井 玄 | (株)北海道宝島旅行社 プランナー | 事務局 |

■主催者（3名）

| 番号 | 氏名 | 所属・役職等 |
|----|--------|---------------------------------|
| 1 | 村上 浩之 | 北海道運輸局 観光部 観光部長 ※1/6、7のみ |
| 2 | 小池 樹里 | 北海道運輸局 観光部 観光企画課 専門官 |
| 3 | 山田 祐太朗 | 北海道運輸局 観光部 観光地域振興課 滞在コンテンツ開発推進係 |

・最終行程

【Day 1】 令和7年1月4日（土） 場所：いぶり自然学校（イコロの森内）

| 時間 | 内容 |
|--------|--|
| 12：00～ | イコロの森 集合、昼食 |
| 12：45～ | オリエンテーション <ul style="list-style-type: none"> ・『アドベンチャートラベルガイド』ってどんな人？ ・3泊4日のスケジュールの説明 ・一緒にいる大人の紹介、役割の説明 など |
| 13：00～ | イコロの森 施設探索（施設内を歩いて何があるか知ろう） <ul style="list-style-type: none"> ・動物（羊（7頭）、馬（3頭）、鶏（十数羽）） ・森歩き、コンパスの使い方 ・野生動物（エゾシカ） ・森の奥まで探検 ・雪遊び ・薪割り |
| 15：00～ | 室内で少し休憩（薪ストーブで暖をとる） |
| 15：30～ | 夕飼い（動物のお世話、動物のえさやり） |
| 16：30～ | キッズパスポートの説明 <ul style="list-style-type: none"> ・アドベンチャートラベルに重要な要素は5つの体験価値「ユニークな体験」「自己変革」「健康」「挑戦」「影響（環境負荷低減）」 ・その場で組んだペアなどで話しながら、キッズパスポートへの記入（この4日間での目標、やりたいこと/やってみたいこと、1日目にやったことなど） ・この4日間で挑戦したいこと（子供たちから出てきた意見：焚火調理、川を渡る、森探索、野生動物に見る/会う、馬・鶏・羊の世話（餌やり、水、ボロとる）、キャンプファイヤーで魚・食べ物を焼きたい、雪遊び、薪割り、（皆で）協力したい！、氷で作りたい、雪合戦×2、大きな雪だるま×2、石器作り、エゾシカをつかまえる、かまくらづくり、相撲大会、つらら） |
| 17：30～ | 夕食（カレー、羽釜で炊いたお米、野菜スープ、サラダ、バナナ） |
| 18：30～ | 入浴（苫小牧のなごみの湯（温泉）） |
| 20：45～ | 明日のスケジュールの確認、就寝準備 |
| 21：30 | 就寝（1日目終了） |
| 21：30～ | スタッフミーティング（振り返り・翌日以降に向けた確認） |
| 夜 | 1日の報告を保護者に報告（メールにテキスト、写真添付） |

【Day 2】 令和7年1月5日（日） 場所：いぶり自然学校（イコロの森内）

| 時間 | 内容 |
|--------|---|
| 6：00 | 起床 |
| 6：30～ | 朝飼い（羊・馬・鶏などへの餌やり、肥料となる馬の糞集めなど動物の世話） |
| 7：30～ | 朝食（薪火で焼いたホットサンド、サラダ、野菜スープ、ミカン） |
| 9：00～ | 活動「今日の森暮らし」 <ul style="list-style-type: none"> ・イコロの森の裏の森での、木の伐倒を見学（イコロの森スタッフ八木さん、吉田さんによる伐倒） ・伐倒した木を薪にする作業 など |
| 11：00～ | 昼飼い（羊・馬・鶏などへの餌やり） |
| 12：00～ | 昼食（おにぎり2種類、サラダ、けんちん汁） |
| 13：00～ | 活動「今日の森暮らし」 本人たちの興味に応じて、複数チームに分かれて活動。 <ul style="list-style-type: none"> ・森の探検チーム（担当：荒井一洋さん） 森の探索、森の中での火起こし・焚火、木登りなど ・雪遊びチーム（担当：泉綾乃さん、橋本真央さん） 雪の滑り台づくり など ・薪割り・動物の世話チーム（担当：いぶり自然学校吉田誠さん） 薪割り、羊小屋の掃除 など |
| 15：00～ | 休憩 |
| 15：30～ | 夕飼い（羊・馬・鶏などへの餌やり） |
| 16：30～ | 自由時間（休憩兼ねる） |
| 17：30～ | 夕食（羽釜で炊いたご飯、切干大根の煮物、シカ汁、鹿肉と白菜の中華炒め、バナナ） |
| 18：30～ | 入浴（苦小牧のなごみの湯（温泉）） |
| 20：45～ | 明日のスケジュールの確認、就寝準備 |
| 21：30 | 就寝（2日目終了） |
| 21：30～ | スタッフミーティング（振り返り・翌日以降に向けた確認） |
| 夜 | 1日の報告を保護者に報告（メールにテキスト、写真添付） |

【Day 3】 令和7年1月6日（月） 場所：いぶり自然学校（イコロの森内）

| 時間 | 内容 |
|-------|--|
| 6：00 | 起床 |
| 6：30～ | 朝飼い（羊・馬・鶏などへの餌やり、肥料となる馬の糞集めなど動物の世話） |
| 7：30～ | 朝食（薪火で焼いたホットサンド、野菜スープ（ミネストローネ）、ミカン） |
| 9：00～ | 活動「今日の森暮らし」 <ul style="list-style-type: none"> ・昨日伐倒した木を、馬の力を使って運び出す作業（馬搬（ばはん）） ・薪割り ・室内でゆっくり など |

| | |
|--------|--|
| 11:00～ | 昼飼い（羊・馬・鶏などへの餌やり） |
| 12:00～ | 昼食（スパゲッティ、ミートソース、サラダ、中華スープ） |
| 13:00～ | アドベンチャートラベルガイドの荒井さんの進行で室内ワークショップ <ul style="list-style-type: none"> ・キャンプ初日に配布した「キッズパスポート」を使って、アドベンチャートラベルガイドについて説明 ・目標について考えてみよう（個人で、お友達同士で話しながら） ・今回のキャンプで経験したことをアドベンチャートラベルの5つの体験価値にあてはめて考えてみよう ・荒井さんのガイド7つ道具の紹介 ・質問コーナー など |
| 14:00～ | 自由な活動時間 本人たちの興味に応じて、複数チームに分かれて活動 <ul style="list-style-type: none"> ・森の中での雪遊びチーム 雪合戦 など ・室内でゆっくりチーム ・やすりで木工チーム ・薪割りチーム |
| 15:30～ | 夕飼い（羊・馬・鶏などへの餌やり） |
| 16:30～ | 自由時間（休憩兼ねる） |
| 17:30～ | 夕食（羽釜で炊いたご飯、もやしナムル、クリームシチュー、鶏肉と白菜の中華炒め、バナナ） |
| 18:30～ | 入浴（苫小牧のなごみの湯（温泉）） |
| 20:45～ | 明日のスケジュールの確認、就寝準備 |
| 21:30 | 就寝（3日目終了） |
| 21:30～ | スタッフミーティング（振り返り・翌日以降に向けた確認） |
| 夜 | 1日の報告を保護者に報告（メールにテキスト、写真添付） |

【Day 4】 令和7年1月7日（火） 場所：いぶり自然学校（イコロの森内）

| 時間 | 内容 |
|--------|--|
| 6:00 | 起床 |
| 6:30～ | 朝飼い（羊・馬・鶏などへの餌やり、肥料となる馬の糞集めなど動物の世話） |
| 7:30～ | 朝食（羽釜で炊いたご飯、味噌汁、白菜おひたし、うま煮、ソーセージ、ブロッコリー、バナナ） |
| 9:00～ | 活動「今日の森暮らし」 <ul style="list-style-type: none"> ・そうじ！（使った所を来る前よりもっときれいにしよう！） |
| 10:30～ | 4日間のふりかえり ～アドベンチャートラベルガイドの荒井さんより <ul style="list-style-type: none"> ・「4日間で一番印象に残ったこと」が共通する人で集まっておしゃべり ・気付きの共有、ATガイドの仕事について など |
| 11:00～ | 昼飼い（羊・馬・鶏などへの餌やり） |
| 12:00～ | 昼食（親子うどん（卵は今朝の朝飼いで自分達で採った鶏の卵）、デザート（みかん）、カレーうどん） |

| | |
|----------|---|
| 13 : 00～ | 修了式 ・国土交通省北海道運輸局観光部村上浩之部長及び、 北海道アドベンチャートラベル協議会荒井一洋会長より、 修了証、ピンバッジの授与 |
| 14 : 00 | 4日間の全行程終了 |
| 夕方 | 1日の報告を保護者に報告（メールにテキスト、写真添付） |

・実施の様子

【Day1 1月4日（土） 12：45～ オリエンテーション】



【13：00～ イコロの森 施設探索（施設内を歩いて何ががあるか知ろう）】





【15：30～ 夕飼い（動物のお世話、動物のえさやり）】



【16：00～ キッズパスポートの説明】

- ・アドベンチャートラベルに重要な要素は5つの体験価値「ユニークな体験」「自己変革」「健康」「挑戦」「影響（環境負荷低減）」





【17：30～ 夕食】

・カレー、羽釜で炊いたお米、野菜スープ、サラダ、バナナ



【Day2 1月5日（日） 6：30～ 朝飼い】

・羊・馬・鶏などへの餌やり、肥料となる馬の糞集めなど動物の世話





【7:30～ 朝食】

- ・薪火で焼いたホットサンド、サラダ、野菜スープ、ミカン



【9:00～ 活動「今日の森暮らし」】

- ・イコロの森の裏の森での、木の伐倒を見学
- ・伐倒した木を薪にする作業 など





【12:00～ 昼食】

・おにぎり 2種類、サラダ、けんちん汁



【13：00～ 活動「今日の森暮らし」】

本人たちの興味に応じて、複数チームに分かれて活動。

- ・森の探検チーム（担当：荒井一洋さん）
森の探索、森の中での火起こし・焚火、木登りなど
- ・雪遊びチーム（担当：泉綾乃さん、橋本真央さん）
雪の滑り台づくり など
- ・薪割り・動物の世話チーム（担当：いぶり自然学校吉田誠さん）
薪割り、羊小屋の掃除 など



【15：30～ 夕飼い（羊・馬・鶏などへの餌やり）、自由時間】



【17：30～ 夕食】

・羽釜で炊いたご飯、切干大根の煮物、シカ汁、鹿肉と白菜の中華炒め、バナナ



【20：45～ 就寝前の自由時間】



【Day3 1月6日（月） 6：30～ 朝飼い】

・羊・馬・鶏などへの餌やり、肥料となる馬の糞集めなど動物の世話



【7:30～ 朝食】

- ・薪火で焼いたホットサンド、野菜スープ（ミネストローネ）、ミカン



【9:00～ 活動「今日の森暮らし」】

- ・昨日伐倒した木を、馬の力を使って運び出す作業（馬搬（ばはん））
- ・薪割り
- ・室内でゆっくり など





【12:00～ 昼食】

- ・スパゲッティ、ミートソース、サラダ、中華スープ



【13:00～ アドベンチャートラベルガイドの荒井さんの進行で室内ワークショップ】

- ・キャンプ初日に配布した「キッズパスポート」を使って、アドベンチャートラベルガイドについて説明
- ・目標について考えてみよう（個人で、お友達同士で話しながら）
- ・今回のキャンプで経験したことをアドベンチャートラベルの5つの体験価値に当てはめて考えてみよう
- ・荒井さんのガイド7つ道具の紹介
- ・質問コーナー など



【14：00～ 自由な活動時間】

本人たちの興味に応じて、複数チームに分かれて活動。

- ・森の中での雪遊びチーム（雪合戦 など）
- ・室内でゆっくりチーム
- ・やすりで木工チーム
- ・薪割りチーム



【17：30～ 夕食】

- ・羽釜で炊いたご飯、もやしナムル、クリームシチュー、鶏肉と白菜の中華炒め、バナナ



【21：30～ スタッフミーティング（振り返り・翌日以降に向けた確認）】



【Day4 1月7日（火） 6：30～ 朝飼い】

・羊・馬・鶏などへの餌やり、肥料となる馬の糞集めなど動物の世話



【7：30～ 朝食】

・羽釜で炊いたご飯、味噌汁、白菜おひたし、うま煮、ソーセージ、ブロッコリー、バナナ



【9：00～ 活動「今日の森暮らし」】

・そうじ！（使った所を来る前よりもっときれいにしよう！）



【10：30～】

4日間のふりかえり ～アドベンチャートラベルガイドの荒井さんより

- ・「4日間で一番印象に残ったこと」が共通する人で集まっておしゃべり
- ・気づきの共有、ATガイドの仕事について など



【11：00～ 昼飼い（羊・馬・鶏などへの餌やり）】



【12：00～ 昼食】

- ・親子うどん（卵は今朝の朝飼いで自分達で採った鶏の卵）、デザート（みかん）、カレーうどん



【13：00～ 修了式】

- ・国土交通省北海道運輸局観光部村上浩之部長及び、北海道アドベンチャートラベル協議会荒井一洋会長より、修了証、ピンバッジの授与



・ワークショップ実施報告

●ワークショップ1 「アドベンチャートラベルガイドって何だろう？パートI」

Day 1 1月4日(土) 16：00～17：15

進行：NPO 法人大雪山自然学校 代表理事 荒井 一洋氏

[内容]

(1) アドベンチャートラベルに重要な5つの体験価値の説明

(今回用意したキッズパスポートの説明を含む)

- ① 今までにないユニークな体験
 - ・・・ その他の場所では味わえない、その地ならではの体験がある
- ② 自己変革
 - ・・・ 体験を通じて、自己が成長・変化していくことを感じることができる
- ③ 健康であること
 - ・・・ 旅行前より心身ともに健康になった感覚を得ることができる
- ④ 挑戦
 - ・・・ 身体的・心理的に様々な意味合いでの「挑戦」の要素が体験に含まれている

⑤ 影響

- ・・・ 体験にあたって、文化や自然に対して良い影響が大きく・悪い影響が小さくなっていると感じられる

(2) ペアワーク

(ペアで話しながら、キッズパスポートの各項目への記入 (4日間での目標、挑戦してみたいこと、1日目に体験したこと等))

(3) 会場全体で出た意見の共有

(参加者から出た意見：この4日間で挑戦したいこと)

- ・ 焚火調理、川を渡る、森探索、野生動物に見る/会う、馬・鶏・羊の世話 (餌やり、水、ボロとる)、キャンプファイヤーで魚・食べ物を焼きたい、雪遊び、薪割り、(皆で) 協力して何かを成し遂げたい!、雪合戦、大きな雪だるま作り、石器作り、エゾシカをつかまえる、かまくらづくり、相撲大会、つらら



●ワークショップ2 「アドベンチャートラベルガイドって何だろう?パートII」

Day 3 1月6日(日) 13:00~14:00

進行: NPO 法人大雪山自然学校 代表理事 荒井 一洋氏

[内容]

- (1) キッズパスポートの5ページ「やったこと(行動)」の記入 <個人ワーク>
- (2) キッズパスポートの3ページ「目標」の記入 <個人ワーク・グループワーク>
6ページ「フィールドノート/活動の気づき」の記入 <個人ワーク>
- (3) アドベンチャートラベルガイドについての授業 <レクチャー>
 - ・ 皆の周りには、「アドベンチャートラベルガイド」と呼ばれる人がいる。
 - ・ 例えば、私(荒井)は、森で死なない技を身に付けていて、どんな環境でも焚火ができるとか、木登りが得意とか木の種類を知っていると云った得意技を持っている。そして、普段からその得意技のために腕を磨いている。

僕は、アドベンチャーをするために普段から練習をしていて、その結果としてプロのアドベンチャートラベルガイドをやっている。

- ・アドベンチャートラベルガイドは、例えば、自然のことや、動物のこと、料理のこと等、それぞれの興味のある分野についてとても勉強している。
- そして、日頃勉強していることを、今回みたくお客様が来たら、例えば自然のフィールドにご案内して、一緒に学んで、体を動かして、健康になって、というのがアドベンチャートラベルガイドの仕事である。
- ・今回のキャンプは、このアドベンチャートラベルガイドの仕事を伝えたくて、皆に参加してもらった。
 - ・そして、今回のメインは、「森」。森の暮らしアドベンチャー。朝昼晩動物の世話をし、森の恵みを頂いて、木を伐って薪を作って火を焚いて、ご飯を食べて、そういう森の暮らしアドベンチャーを実際に体験しながら、アドベンチャートラベルガイドの仕事について知ってほしい。

(4) アドベンチャートラベルガイドの道具の紹介

- ・「救急道具」絆創膏や包帯、ハサミ。ハサミ入れはシラカバの木の皮で出来ていて、緊急事態には燃やせるようになっている。
- ・「ポケットスキルガイドの小冊子」止血や人工呼吸の仕方など、救急時の対応方法についてコンパクトに載っている。常に練習もしているが、万が一忘れても大丈夫なようにそういうものも携帯している。
- ・「ライター」「ナイフ」「フィールドノート（メモ帳）とペン」

(5) 質問タイム

Q. アドベンチャートラベルガイドをしていて楽しかったことは何か？

A. ゲストが感動したりとても喜んでくれた時。

例えば、冬に凍った滝にゲストをお連れして、「ここは一人では来ることができなかった。案内してくれてありがとう」なんて言われるのが最高。

皆からの「ありがとう」を集められることがとても楽しい。

Q. アドベンチャートラベルガイドになりたいと思ったきっかけは？

A. 元々は、森遊びや、サイクリングが得意だった。自転車なんかは、高校生の時に、1日160kmとか走っていた。そういう風に、得意だから（森遊びやサイクリングが）できた。できるから他人から褒められた。そうすると楽しかった。もう一つは、他人から「ありがとう」と言われることが嬉しかった。なので「嬉しいこと（他人からありがとうと言われること）」と「できること（自分が得意なこと）」を掛け合わせたらサイクリングガイドだった。それが今。「得意なこと」をできるようにすることと、「好きなこと」が重なるように、ということを考えていた。必ずしも得意なことが好きなことという訳でもないと思うので。



●ワークショップ3 「4日間のふりかえり」

Day 4 1月7日(月) 10:30~11:00

進行: NPO 法人大雪山自然学校 代表理事 荒井 一洋氏

[内容]

(1) 4日間のふりかえり <全体ワーク>

(2) 一番印象に残っていることは何か? その仲間を見つけよう。

そして、チームで「何が、どう楽しかったのか?」話してみよう <グループワーク>

- ・薪割りが一番印象に残ったチーム
 - ・雪遊び(雪山づくり、みかんの皮に水をいれて凍らせた等)が一番印象に残ったチーム
 - ・温泉が一番印象に残ったチーム
 - ・馬のブラッシングが一番印象に残ったチーム
 - ・筋肉痛が一番印象に残ったチーム
 - ・雪合戦が一番印象に残ったチーム
- (3) 全体での感想等の共有/アドベンチャートラベルガイドとして皆に伝えたいこと
- ・みかんの皮に水を入れると、水は漏れるか? 漏れないか?
→ 漏れない。なぜなら、みかんの皮は防水で水を通さないの。
自然界にある「皮」と呼ばれるものは、木の皮、エゾシカの皮、バナナの皮、人間の皮(皮膚)も含めて、基本的に防水機能がある。
 - ・なぜ、我々は今回薪割の仕事で、木を割ったのか?
→ なぜなら、薪は燃やすのに使うため。よく燃えるために、薪は乾燥状態が望ましい。木に皮が付いたままだと乾燥しにくいので、割って、皮でない部分が空気に触れる割合を増やすことで、早く乾燥させたい、という理由がある。
 - ・2日目と3日目の雪合戦で、3日目の雪合戦の方が楽しかったのはなぜか?
→ 3日目の方が、雪玉が作りやすかったから。なぜなら、気温と室温の関係で、3日目の方が水分が多かったため。
 - ・アドベンチャートラベルガイドは、いつもこんな風に勉強をしている。
→ 例えば、自分より背の高い木や柱の高さを測る方法がある。
二等辺三角形をイメージして、45度になる角度に自分が移動して、自分が立っている場所と柱までの距離で測る等。
 - ・アドベンチャートラベルガイドは、気づきや発見、勉強が大事。常に目の前の現象を観察し、データを蓄え、ガイドに活かしている。
→ 例えば、エゾシカはどのような場所に多いか? エサ、すみか(松の木の下や、風をよけられる谷間など)、水(川)。この3つの条件があるところに行くと、エゾシカを良く見られる。モモンガやキツネも同じである。



2-2. 参加者へのノベルティ等の製作

事業の効果を高めるために、下記のノベルティを製作し、参加者へ配布した。

①ピンバッジの製作

記念に残るように錆びにくく見た目も美しい長期間使用可能なステンレス素材を使用。経年劣化が少なく耐久性があるものとして製作した。

<仕様>

サイズ：25×20mm

素材：ステンレス、シルバー色

着色：インクジェット、エポキシ樹脂あり

バタフライクラッチ、個包装

<数量>

40 個



表面

裏面

②キッズパスポートの製作

本プログラムの参加者がプログラム中に実施又は達成したATの5つの体験価値等を、その証として記録するものとして製作した。記念に残るよう経年劣化が少なく耐久性があることを念頭に表紙4頁/上質180kg、本文16頁/上質90kg、表紙マットPP加工の仕様とした。本プログラム実施中において、都度アドベンチャートラベルガイドがキッズパスポートの記載事項の確認を促したり、ATの理解の促進に繋げるために日々の成果を子供たちに記入してもらうなどして、活用した。

<仕様>

サイズ：A6サイズ

表紙4頁/上質180kg、本文16頁/上質90kg

28ページ中綴じ オンデマンド印刷

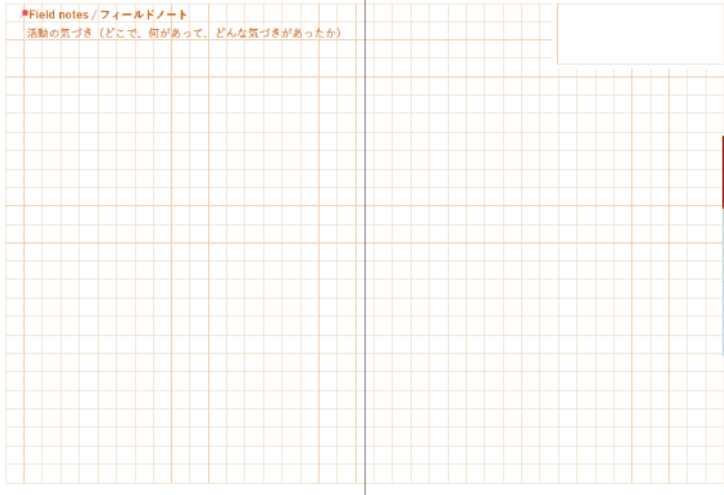
表紙マットPP加工+UV金箔加工

<数量>

20部



| | |
|--|--|
| <p>1 The Novel and Unique いままでにない ユニークな体験</p>   | <p>やったこと (行動)</p> <p>【Day1】 実行年月日 / /</p> <hr/> <p>【Day2】 実行年月日 / /</p> <hr/> <p>【Day3】 実行年月日 / /</p> <hr/> <p>【Day4】 実行年月日 / /</p> <hr/> <p>※アドベンチャートラベルガイドから一言</p> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> |
| <p>2 Transformation 自己変革</p>   | |
| <p>3 Wellness 健康であること</p>   | |
| <p>4 Challenge 挑戦</p>   | |
| <p>5 Impact 影響</p>   | |

| | |
|---|---|
| <p>※Field notes / フィールドノート 活動の気づき (どこで、何があって、どんな気づきがあったか)</p> |  |
|---|---|

| | |
|--------------|--|
| <p>※MEMO</p> |  |
|--------------|--|

●Field notes / フィールドノート
 活動の気づき (どこで、何があって、どんな気づきがあったか)

This is a grid-based field notes page. The top left corner contains the title "Field notes / フィールドノート" and a subtitle "活動の気づき (どこで、何があって、どんな気づきがあったか)". The page is divided into two columns by a vertical line. On the right side, there is a vertical year selector with three options: 2025 (orange), 2026 (teal), and 2027 (dark teal). The grid covers most of the page area. At the bottom of each column, there is a small logo and the text "TRAILBLAZER'S VOICE PASSPORT".

●MEMO

This is a blank memo page with a light blue background. The top left corner contains the title "MEMO". The page is divided into two columns by a vertical line. On the right side, there is a vertical year selector with three options: 2025 (orange), 2026 (teal), and 2027 (dark teal). At the bottom of each column, there is a small logo and the text "TRAILBLAZER'S VOICE PASSPORT".

③修了証の製作

参加者がプログラム全日程を無事に実施したことを証するものとして、下記の通り製作した。

<仕様> 片面 A4 サイズ縦型 賞状用紙 135kg、クリーム色

<数量> 20 枚



2-3. アンケート及びヒアリング

参加者及びその保護者、ガイドを補助する学生に対してアンケートを行い、以下の点について把握、検証を行った。

- ① 本プログラムの満足度や課題
- ② 本プログラムを通じた、旅行や野外活動、地域理解に対する態度変容
- ③ ATガイドに対する認知度と職業選択に関する態度変容

2-3-1. 調査概要

調査対象：プログラムに参加した小学生13名、その保護者12名、学生3名

調査方法：質問票への回答記入、及び、Google Formsを用いたオンラインアンケート

調査期間：令和7年1月

有効回答数：小学生13件、保護者12件、学生3件

2-3-2. 回答者属性

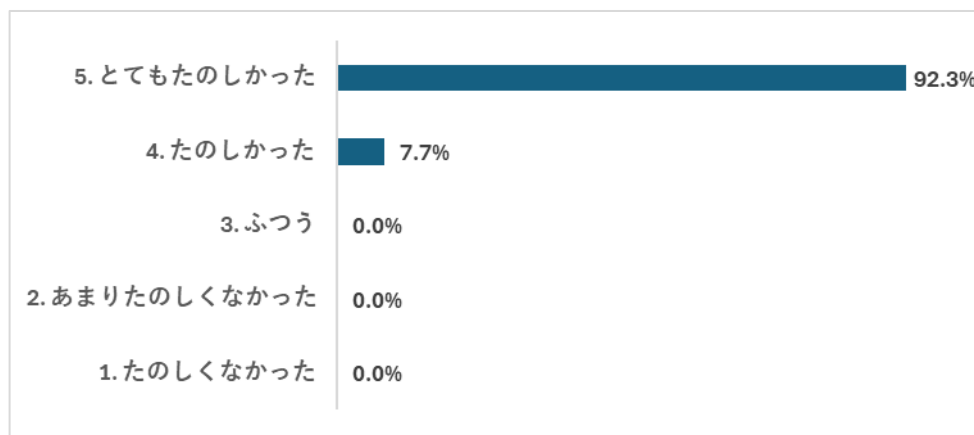
<小学生>

小学4年生9名（69%）、小学5年生2名（15%）、小学6年生2名（15%）

2-3-3. アンケート結果

<小学生>

Q：冬の森暮らしの体験はたのしかったですか？（n=13）

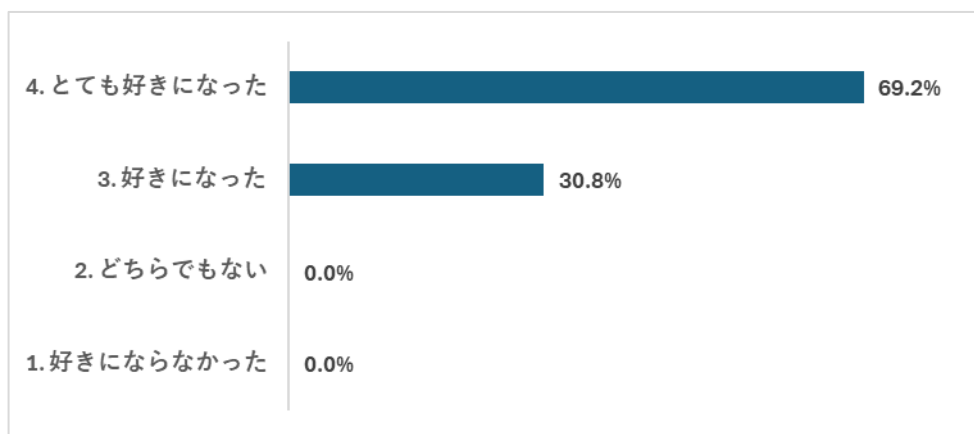


| | |
|---------------------------------|---|
| <p>たのしかったこと、おもしろかったことは何ですか？</p> | <p><5. とてもたのしかった>の回答者の答え</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ゆきっぺ〜を作ったこと。お風呂に入ったこと。カードゲームをしたこと。 ・ 雪合戦/雪だるま（すべり台）を作った/動物のお世話 ・ 雪合戦/雪だるま（すべり台）づくり/動物の世話/馬をひっぱる/森のたんけん ・ 馬のナナのブラッシングや雪遊び、雪合戦、上田さん達の手伝い。温泉やご飯。 ・ たんけんやエサやりがたのしかった。 ・ まきをわったり、動物にエサをやったこと。かんそうした木をボキボキに折ったこと。羊にエサをやったとき、羊がすごくおながすいていたのかとっしんされたこと。 |
|---------------------------------|---|

| | |
|--|--|
| | <ul style="list-style-type: none"> 薪割り、そうじ、風呂、餌やり まき割り まきをノコギリで切ったこと/森で木登りをしたり、たきびをしたりしたこと/動物にえさをあげたこと まきわり、たんけん、えさやり、木登り、のこぎりで木をきること ゆきがっせん、どうぶつのせわ、まきわり、たんけん、おんせん、きのぼり 森のたんけんと動物のおせわ <p><4. たのしかった>の回答者の答え</p> <ul style="list-style-type: none"> 雪合戦 |
|--|--|

| | |
|-------------------------|---|
| むずかしかったこと、大変だったことは何ですか？ | <ul style="list-style-type: none"> 動物の世話をしたこと。ノコギリで木を切ったこと。 馬をひっぱった/雪だるま(すべり台)を作った/おそうじ 馬をひっぱる/おそうじ 馬のフン取りやエサやり、大そうじ、朝がよい、昼がよい、夕がよい。 まきわりのオノがおもかった。 4日目の大そうじ。まきがたまにかたいものがあって大変だった。馬(ななちゃん)のエサが重くて大変だった。 筋肉痛、丸太を人力で運ぶこと。 まき割り まきをノコギリで切ったこと/重い木を運んだこと のこぎりで木をきること。筋肉痛。 まきわり、どうぶつのせわ 朝がよい 特にない |
|-------------------------|---|

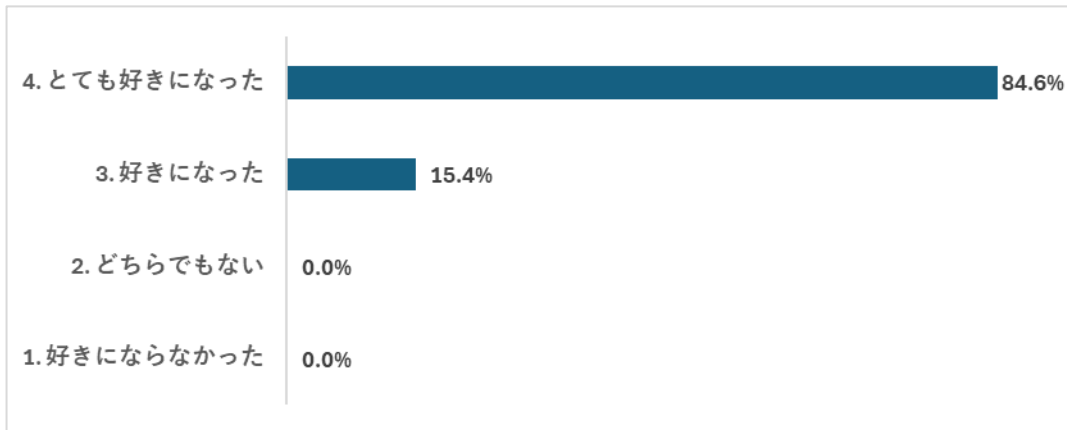
Q：この4日間の体験を通じて、旅行や野外活動がもっと好きになりましたか？ (n=13)



| | |
|---------|---|
| 上記回答の理由 | <p><4. とても好きになった>の回答者の答え</p> <ul style="list-style-type: none"> あまり森に行ったことがなかったのでこれを経験してとても好きになれたから。 いがいと外でみんなで遊んでみたらとても楽しかったから まきわりをやりたかった！/動物のお世話が楽しかった！/森のたんけんが楽し |
|---------|---|

| | |
|--|---|
| | <p>かった！</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 初めて動物を可愛いと思ったり、まきわりをしたのしかった ・ 体験をとおして自然がすきになった。 ・ 自分は札幌に住んでいて、自然があまりなかったけど、旅行に行くとき自然や知らない場所があるので、好きになった。 ・ 楽しいだけではなく、いろいろな経験を味わえるから。 ・ 知らない友だちととまるのってなんとなくきんちょうしたけど、いがいと楽しかった。 ・ 森たんけんや動物のおせわがたのしかった <p><3. 好きになった>の回答者の答え</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 元はインドアだったが、今回の活動を経て、野外活動やアウトドアの楽しさを知った。 ・ まき割り ・ どうぶつのせわやいろいろなことをして好きになった。 ・ みんなで雪合戦などをして交流できたから |
|--|---|

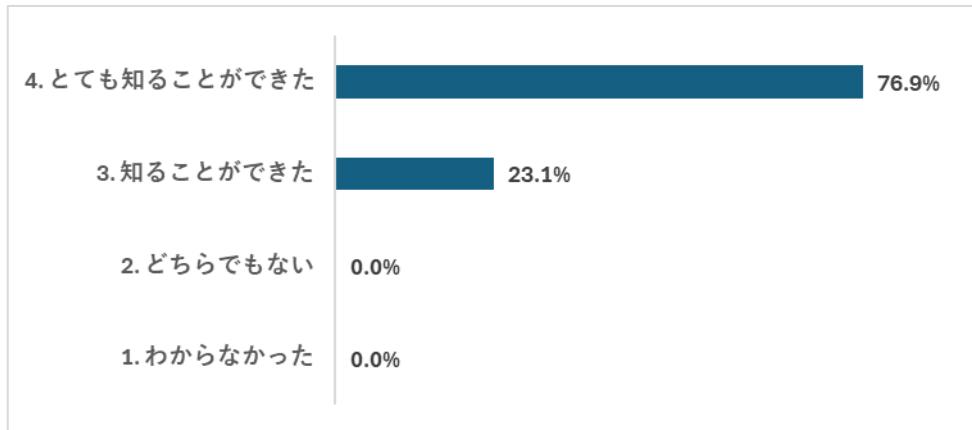
Q：この4日間の体験を通じて、あなたの住んでいるところ（北海道）をもっと好きになりましたか？（n=13）



| | |
|----------------|--|
| <p>上記回答の理由</p> | <p><4. とても好きになった>の回答者の答え</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自然（森）や動物に行ったり、ふれたりしたから。 ・ みんなで雪で遊んだら楽しかったから ・ 雪あそびが出来ること！/きれいな森がたくさんあること！ ・ 北海道にはこんなにすてきな場所があるんだと思った。 ・ みりよくや自然があり、雪がみりよく。 ・ ぼくは北海道の札幌に住んでいたから、自然をあまり感じれなかったけどイコロの森にはこんな自然やどりよくがあるんだなあと思ったので、北海道がもっと好きになった。 ・ 自然豊かな所や、ひまにならない所 ・ 雪がたくさん降るから/いろいろな種類の動物がいるから ・ こういうところがあるから。 |
|----------------|--|

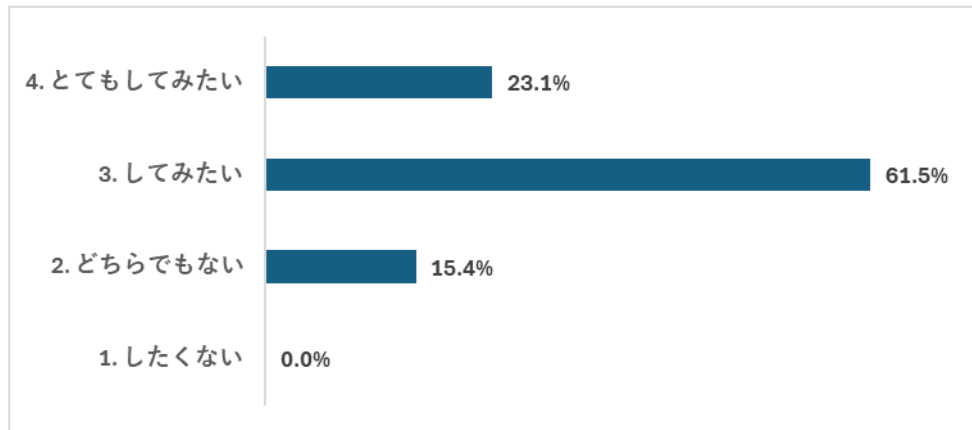
| | |
|--|--|
| | <ul style="list-style-type: none"> ・ こういう体験があるから ・ 元々好きだったから <p><3. 好きになった>の回答者の答え</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 北海道の自然を感じれたから ・ 雪で遊べるから。 |
|--|--|

Q：この4日間の体験を通じて、アドベンチャートラベルガイドの仕事を知ることができましたか？ (n=13)



| | |
|----------------|---|
| <p>上記回答の理由</p> | <p><4. とても知ることができた>の回答者の答え</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ アドベンチャートラベルガイドさんがやっている「動物の世話」や「道案内」などをたくさん知れたから。 ・ アドベンチャーガイドの人が色々おしえてくれたから ・ 森での豆知識が分かった！/木の高さの測り方が一番すごいとおもった！ ・ アドベンチャートラベルガイドにガイドしてもらった事があって、ガイドする以外にも、雪があってもたき火をできたりするのを知りました。 ・ ぼくたちも、アドベンチャートラベルガイドといっしょにいたので、とても知ることができました。いろいろな人にガイドについてわからないことを教えてあげたり、ここにはこんな魅力がありますよと、アドバイスしてあげている。 ・ ATGのすることや大切なことを身を持って知ったから。 ・ あらいさんがアドベンチャートラベルガイドについての話をたくさんしたから ・ あらいさんがせつめいしてくれたから ・ アドベンチャートラベルガイドの仕事をいっぱいおしえてくれたから。 ・ あらいさんの話や交流などができたから <p><3. 知ることができた>の回答者の答え</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 木を切ったり、どうぶつにえさなど、あとメモするということがわかった。 ・ あらいさんがおしえてくれたから ・ あらいさんがいろんなことをおしえてくれたから |
|----------------|---|

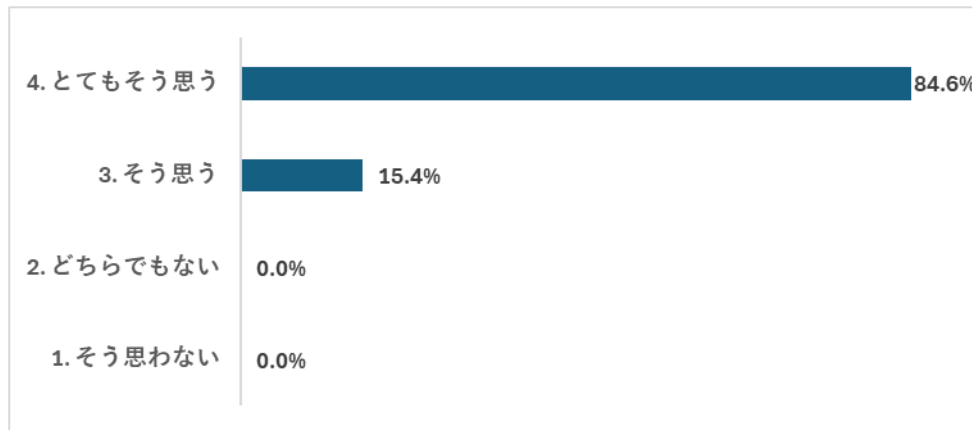
Q：この4日間の体験を通じて、アドベンチャートラベルガイドの仕事をしてみたいと思いましたが？ (n=13)



| | |
|---------|--|
| 上記回答の理由 | <p><4. とてもしてみたい>の回答者の答え</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 色々なデータをためるのがすごいとおもったから！/工夫してやっているすがたがかっこいいとおもったから！ ・ みんなのことを喜ばすことができると感じたから/たくさんの人に会えると思ったから ・ まきわりがとても楽しいから <p><3. してみたい>の回答者の答え</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 羊に追いかけられたので「とてもしてみたい」ではなくて「してみたい」にしました。理由じゃないかも… ・ 森の中で役立つ事など、森についてくわしくてすごいなと思った。 ・ 「ありがとう」「あなたのおかげです」とか言われてとてもよこんでいるって言ってたから、そんなにうれしいと思った。 ・ 自ぜんの中をたんさくしてさいじをすることをやりたいです。 ・ アドベンチャートラベルガイドは人にいろいろなことを教えたりアドバイスをするので、いろいろな人からほめられたり、お客さんがうれしくなったりするのでしてみたい。 ・ 荒井さんや上田さんの仕事を知ってとても楽しかったから。 ・ 大人になったら1回ぐらいはしてみたいとおもった ・ 他にもなりたい仕事があるから <p><2. どちらでもない>の回答者の答え</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ サッカーせんしゅになりたいから ・ プロ野球選手にもなりたいから |
|---------|--|

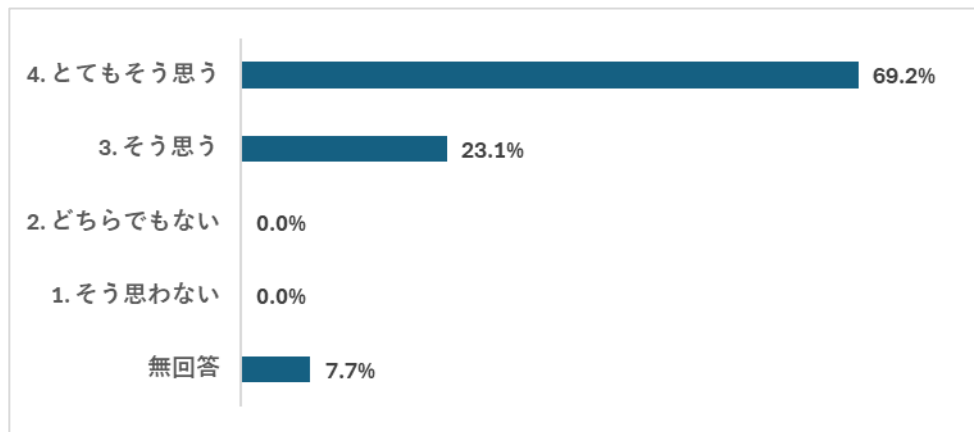
Q：この4日間の体験を通じて、次の5つの体験価値を感じることはできましたか？

1「今までにないユニークな体験」について (n=13)



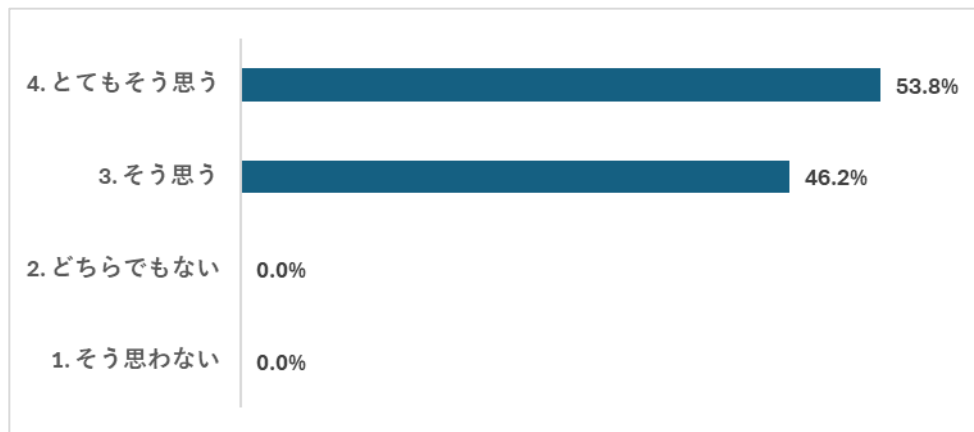
| | |
|-------------------|---|
| <p>そう思った理由や場面</p> | <p><4. とても思う>の回答者の答え</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 動物のえさ：家で動物をかっていないから。 ・ 動物とふれあったり、これまでやったことがない事があったから ・ 鹿を追いかけた/にわとりをだっこする/馬のフンとり ・ 動物にさわったりする。 ・ 木を切るところや、エサをあげたり、こやにとまったりすることがユニークな体けん。 ・ 自分は馬が引く荷台に乗せてもらったことです。理由は馬を見たり、さわったりすることが日じょうでないので、馬が引く荷台に乗れたのがめずらしかったです。 ・ 人間運搬機（人力で丸太を運んだ） ・ チェンソーで木を切るところを間近で見られるから/動物にえさをやること/ノコギリで木を切ること ・ まきわりできるから ・ どうぶつのせわや、まきわり、たきび 森であそぶことがないから。 <p><3. そう思う>の回答者の答え</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 4日間とまったから ・ 男女こんごう雪合戦ができたから |
|-------------------|---|

Q：この4日間の体験を通じて、次の5つの体験価値を感じることはできましたか？
2「(自分自身の) 挑戦」について (n=13)



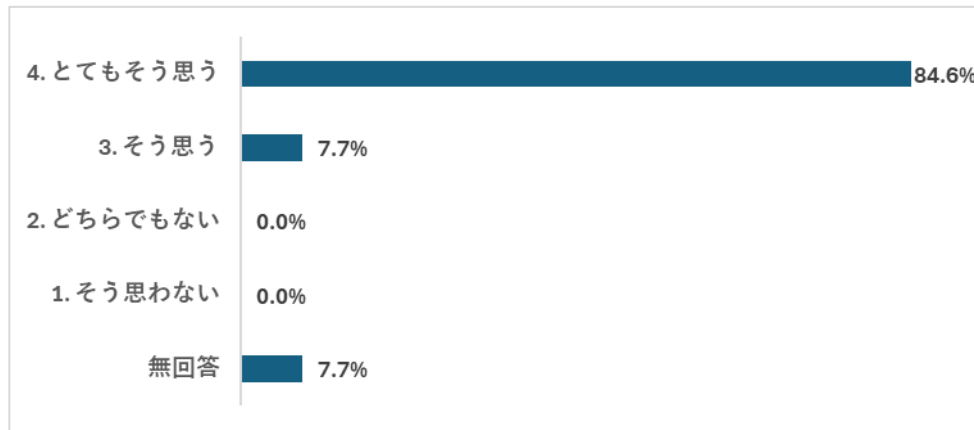
| | |
|-------------------|--|
| <p>そう思った理由や場面</p> | <p><4. とても思う>の回答者の答え</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 動物のうんちとり：やったことがなかったのでこれをとおして、ちょうせんできたから。 ・ ニワトリをだっこしたり、ウマをひっぱったりしたから ・ にわとりをだっこする/馬をひっぱった/知らない人とキャンプすること ・ いろんなことにもチャレンジすること ・ 自分は、にわとりをだっこしたことです。理由はにわとりをだっこするとくちばしでつかれたり、羽をバタバタさせてにげるかもしれないけど、なんとかだっこできたことが挑戦でした。 ・ 薪割り、早寝早起き ・ 太い木をノコギリで切ること/馬につけているつなで馬をひっぱること ・ まきわり ・ 例えば馬のフンをかたづけることもできた <p><3. そう思う>の回答者の答え</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 動物にエサやり ・ どうぶつをこわがらずにせわをしたこと ・ にわとりをもつのがこわかったけど、もてたこと |
|-------------------|--|

Q：この4日間の体験を通じて、次の5つの体験価値を感じることはできましたか？
3「影響」について (n=13)



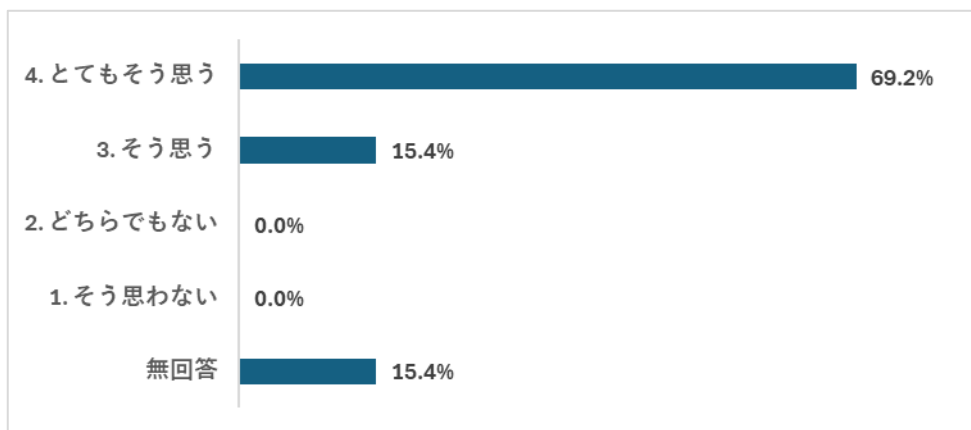
| | |
|-------------------|--|
| <p>そう思った理由や場面</p> | <p><4. とても思う>の回答者の答え</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 使ったものをもとにもどす：使ったものをもどさないと「これからの生活」が困るから ・ 木のえだをおったり、使った物をかたづけたから。 ・ 木をたおしすぎない/たおれている木のえだを折る/古い木はたおす ・ 木のえだをむだにふまないようにする ・ 自ぜんをあらしたり、よごしたりするのはよくないとかんじた。 ・ 森でゴミを捨てていないので、自然に悪いえいきょうはなかったと思う。 ・ 動物にえさをあげる <p><3. そう思う>の回答者の答え</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 木が悪くなる程のことだけでなく、他の木が成長しやすいように切っていた。 ・ 木をたくさん切ること ・ 馬にむりやりみかんのかわをたべさせた ・ うまやひつじのふんをかたづけてすみやすいようにした。 ・ みんなが動物のおせわをしていた ・ 最初は木なんて折っていたけど少しはおとなしくなったこと |
|-------------------|--|

Q：この4日間の体験を通じて、次の5つの体験価値を感じることはできましたか？
 4「健康であること」について (n=13)



| | |
|------------|---|
| そう思った理由や場面 | <p><4. とても思う>の回答者の答え</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 羊とおいかけっこ：羊がおにで私がにげるがわでした。けっこう走ったので少しい運動になったから。 ・ ぐっすりねれた/たくさんたべた ・ いつも以上にたくさん食べてよく寝た。 ・ 心身がとてうれしくなりけんこうになった。 ・ まきは、すごくかたくてわれないと思ったけど、意外にすぐわれて力がおとろえてなかったのでけんこうだと思った。 ・ 上田さんなど中国 4000 年の陳、菊ちゃんのご飯 ・ 外で体を動かして体を温める/ごはんをたくさん食べる ・ ごはんのとき。おいしいごはんのときわらったから。 ・ あそんだりはやおきをしてどうぶつのえさをあげたりすること ・ いつも元気に動物のせわをできたこと <p><3. そう思う>の回答者の答え</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ぐっすりねれたし、はやくおきたから。 |
|------------|---|

Q：この4日間の体験を通じて、次の5つの体験価値を感じることはできましたか？
 5 「(この4日間を通して自身が気づいた) 自己変革」について (n=13)

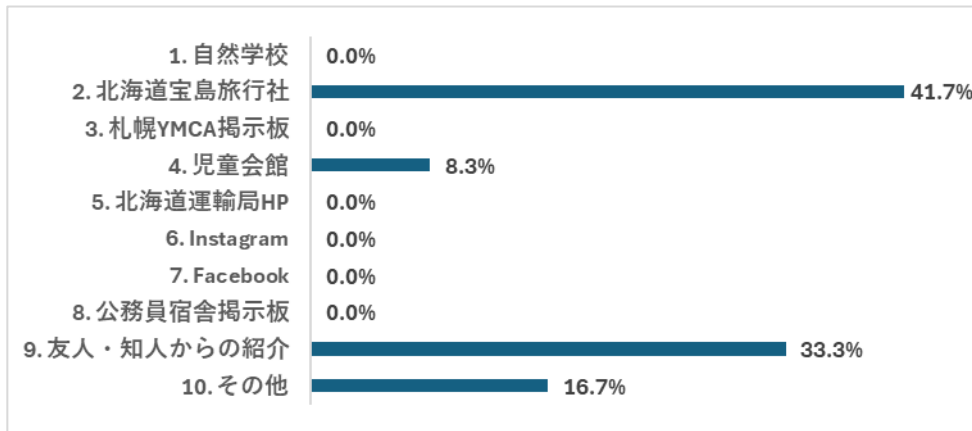


| | |
|------------|--|
| そう思った理由や場面 | <p><4. とても思う>の回答者の答え</p> <ul style="list-style-type: none"> 動物の世話：昔は動物をかってみたいとは思わなかったけど、これをおしてかってみたいと思いました。 自分からすすんで外にでるようになったから。 動物とふれあうことできょうみがわいた/えさやりをしたら思いやることができた 自分からすすんで馬のブラッシング 色々なことにチャレンジできるようにせいちょうした この4日間のキャンプは、朝6時と早く起きるから、前よりぜんぜん早く起きれるようになった。 ノコギリでたくさん木を切ること どうぶつとこわがらずにせったりすること 動物のお世話をできた <p><3. そう思う>の回答者の答え</p> <ul style="list-style-type: none"> 動物の世話や薪割り等の自然体験 少しは自然を愛せるようになった <p><(評価点に関しては) 無回答>の答え</p> <ul style="list-style-type: none"> 外であそぶことのたのしさ 自分がじみにうまかった(まきわり) |
|------------|--|

2-3-4. アンケート結果

<保護者>

Q：本プログラムを知ったきっかけについて、当てはまるものをお選びください。(n=12)



※「その他」の16.7% (2件) の内訳は「チラシ」「学校からのお知らせ」

Q：本プログラムに応募された理由についてお聞かせください。(n=12)

| 応募理由 | 理由 |
|------|--|
| | <ul style="list-style-type: none"> 友人に教えていただき、内容がとても魅力的で子ども自身も参加したい！と積極的だったので応募させていただきました。 子どもがアドベンチャートラベルのエッセンスに触れられる機会だったから。 珍しい色々な体験ができそうだったため。 本人が行きたいと言ったから 本人が興味を持って、参加したいと言ったため。 この活動をきっかけに何か変化が起きてくれたら。と、思い応募しました。 友達から一緒に行こうと誘われて本人が興味を持っていきたいと希望したため 普段から自然活動に触れていますが、ATガイドさんと行動してより多くの学びを得たいと思って応募しました。 プログラムの内容に子どもが興味を持っていたから 北海道の自然体験をさせたかったこと、親元を離れて、自分で考えて行動できるようになり、一回り成長してほしいと思ったことから。また、スルーガイドの荒井さんやスタッフの方々なら、安心して子どもを託せる、かつ、子どもが今後将来の生き方や職業を考える上で、学ぶことが大きいだろうと考えたから。 ぶなの森自然学校に参加した時は、姉妹（今回参加したのは妹）だったり、一人で知らないコミュニティで過ごしたことがなかったので、いい経験になると思いました。 プログラム内容が魅力的。娘も参加することに意欲的だったため。 |

Q：本プログラムに期待されていたことについてお聞かせください。(n=12)

| | |
|------------------|--|
| <p>プログラムへの期待</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・ 3泊4日家族と離れることが初めてで、さらに知らない場所、人と過ごせるのか、、、予想できないことだったので不安もありましたが、今回の経験がこれからの糧になればいいなと思っていました。 ・ 普段の生活と異なる活動・空間での体験を通じた自己変革、成長 ・ 生きていく力を身につけて欲しい ・ 子供の成長 ・ 日常と違う環境で生活することや、普段出来ない体験が出来ることで、確実に子供の成長につながることを期待していました。 ・ 野外活動を通じての親だけではさせてあげられないような体験や、3泊4日、親元から離れて初めてあった友達と共同生活することで、メンタルや意識の変化。 ・ 初めてのことに挑戦してみること、周囲の人と協力して行動できること ・ 異年齢、初対面の人たちと交流することで自主性や自然と共存するチカラを身につけてほしいと思っています ・ 自然を体験すること、規則正しい生活、新しい友達を作り協力すること ・ 上記の応募理由と同じです(①こどもの成長、②ATスルーガイドの魅力や人間力の高さを学ぶことにより、将来の職業選択・生き方選択の一つとして認識し、考えてほしい)。 ・ お互いに知らない人間関係の中、自分でしたいこと、することを考えて、デジタル世界や学校のような分単位で決められた行動規範から離れた時間を過ごしてみる。少しの挑戦を試みる。そこにある自然に触れること。 ・ 子どもたちが自分で考えて、活動内容を決めるという点/自然ならではの体験 |
|------------------|--|

Q：本プログラムで良かった点についてお聞かせください。(n=12)

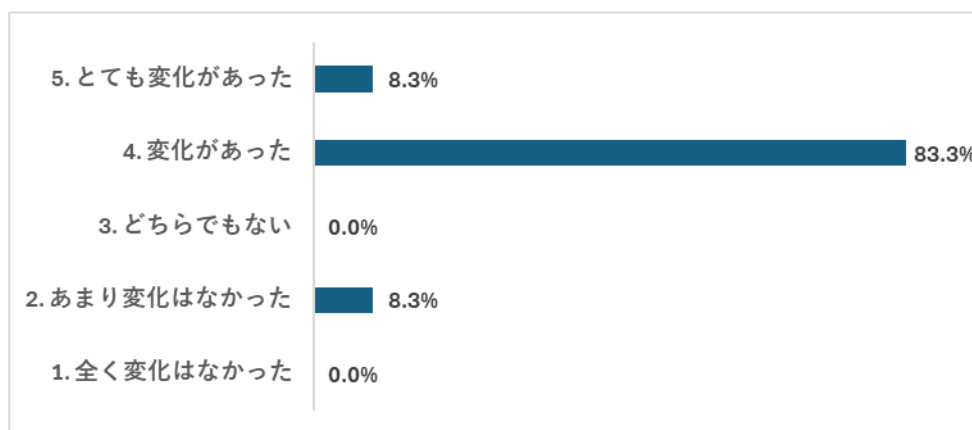
| | |
|--------------|---|
| <p>良かった点</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・ 事前にウェブでの説明会を実施していただいていた詳しい資料も添付していただいていたので大体の流れを把握出来た点、自然や動物に沢山触れ合える点、デジタルから離れられる点が良かったと思います。 ・ 自分で考えて行動することを促進するプログラムだったこと。自主性の尊重。 ・ 自然が多く動物の世話など普段できない体験ができた ・ 他学年の子達との交流、動物の世話、子供たちの意見を尊重してくれるところ ・ ●自然の森の生活を徹底してくれたこと。日常では、ゲームや電子機器のない生活が実現できないので。/●子供のやりたいという意思を尊重してくれていたこと。ぎっちり決まったスケジュールではなく、話し合いでやることを決めるというのがとても良いなと思いました。/●オンライン説明会で、わかりやすく事前に親の心配や不安を取り除いてくれたこと。本当に不安しかない中で、丁寧にお答えいただき安心しました。/●毎日の子供の記録を文章と写真で送ってくれたこと。心配しつつ、楽しみにメールを待っていました。/●専門家の指導のもと、たくさんの貴重な体験ができたこと。しかも、それが無料でできたこと！ |
|--------------|---|

| | |
|--|---|
| | <ul style="list-style-type: none"> ・ キャンプとは違った自然との関わり。 ・ 自分でやりたいことを考えたり、興味を持ったことに取り組めたところ。 ・ 自然学校さんの協力もあり、食事も色々なものを食べられたり、普段体験できない動物のお世話も規則正しい時間になって経験できる、夜もお風呂にも行ったことも楽しかったようです。 ・ これまでの冬休みでは経験できなかったことを経験できた。 ・ 4日間学びの多い活動で、ATガイドや自然学校の仕事のことなど、子どもたちにとって学びが多かった点。毎夜、子どもたちや1日の活動の様子を報告していただき、安心感があったこと。 ・ 帰宅してから、自立心が育ったように思います。また、基本的な生活における自分に対する自信がついたところも良かったと思います。子供はパスポートやバッジという形となってもらえるのが、大人が思うよりインセンティブになると思います。今回認めてもらう制度となっていたことが、他のプログラムと比べて本格的で良かったです。 ・ 娘が楽しかった！と帰ってきたこと/動物との触れ合い |
|--|---|

Q：本プログラムの改善点についてお聞かせください。(n=12)

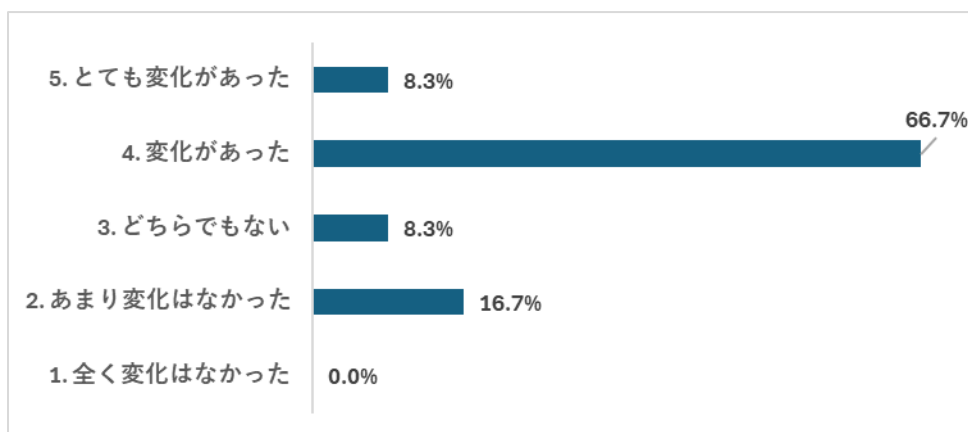
| | |
|-----|---|
| 改善点 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 何より本人が、とても楽しかった！と帰ってきましたので改善点が思いつきませんでした。 ・ 自分がやりたくない活動に少しでも触れる機会、仕組みがあるとより良いと思います。 ・ もう少し短い日程の物があれば良かった。 ・ 朝早く起きるのであれば、就寝時間をもう少し早めにして欲しかった。 ・ いきなり3泊4日は、親も子供もハードルが高いため、2泊とかにした方が参加しやすいと思います。 ・ 子供たちの様子をもっと見れると良かった。 ・ プログラム中の途中経過が気になるので、写真のUPだけでも1日2回くらいあったら良かったかな？と思いました。 ・ 食に関する活動があると良いと思いました。例えば、アイスクリームを作って食べるなど、 ・ とてもいい企画なのに、募集範囲が狭くて惜しかったと感じます。(6年生が少なく、学年バランスが悪かったため) ・ 4日間は参加前は長いのかなと思いましたが、本人的には寂しくて帰りたくなる頃でちょうど良かったとのことでした。ATの大事な一つの要素は環境負荷の低減だと思うのですが、まだ年齢的に難しいことはあるかもしれませんが、もう少し学んできて欲しかったと思います。 ・ 事前準備の情報が少なめ。(許容範囲ですが、おやつシェアはNGみたいな決まりは先に知りたかった。) |
|-----|---|

Q：本プログラム前後で、旅行や野外活動に対するお子様の興味関心に変化はありましたか？（n=12）



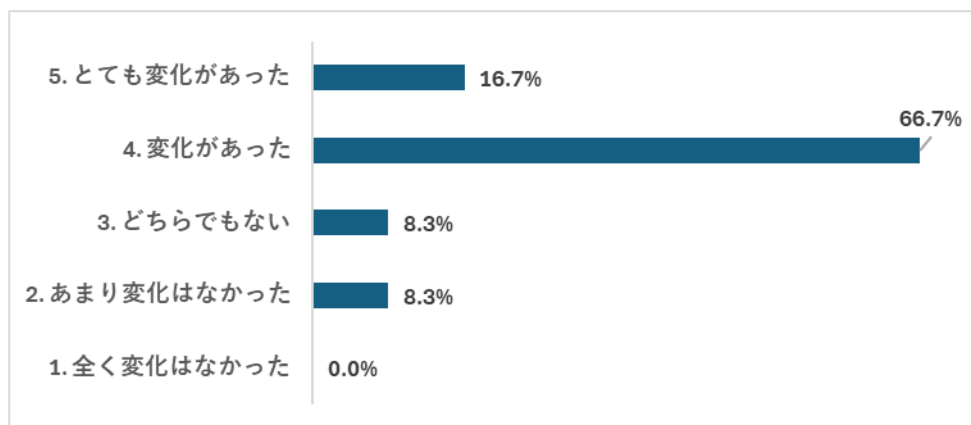
| 理由 | 回答者の答え |
|----|--|
| | <p><5. とても変化があった>の回答者の答え</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 実はあまり動物全般が得意ではなかったのですが、間近で触れることが出来て、初めて動物を可愛いと思えた！と言っていたからです。 |
| | <p><4. 変化があった>の回答者の答え</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 元々自然活動や動物に興味関心がある様子でしたが、実際にじっくり触れてみて、よりその気持ちが強くなった気がします。 ・ 色々なことがわかったみたいで、勉強になったようだったため ・ もっと、いろんな活動に興味をもつようになったから ・ 自ら雪かきや、雪遊びをする機会が増えた。 ・ また行きたい。と、言っていました。 ・ 元々、自然活動が好きなお子ではありますのでATガイドさんのお話でより学びを得られたようです。 ・ 動物の世話に興味を持った。羊以外のエサやりが楽しかった。 ・ 今回のツアーの後、次男が友だちと1泊旅行に行きましたが、今回の経験が生きていて、自分で持ち物準備をしていたため。また、子ども2人もとても楽しかったらしく、同じような企画・イベントがあれば行きたいというようになったため。 ・ 自分一人で過ごしたことで自信がつき、より挑戦したい気持ちが出てくるようになりました。 ・ インドア派だった娘が（家でYouTubeやお絵描き）キャンプに行きたい、こんな動物を見てみたい、と伝えてくれるようになった。 |
| | <p><2. あまり変化はなかった>の回答者の答え</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 今のところ本人からそういったことについての話題は出ていないため |

Q：本プログラム前後で、自分の住んでいる地域（北海道）に対するお子様の興味関心度合
 に変化はありましたか？（n=12）



| 理由 | 回答者の答え |
|----|---|
| | <p><5. とても変化があった>の回答者の答え</p> <ul style="list-style-type: none"> 雪が降る環境に住んでいることがこんなに良い事なんだ！と帰ってきました。普段当たり前のことでしたが改めて北海道を好きになれたと話していたからです。 |
| | <p><4. 変化があった>の回答者の答え</p> <ul style="list-style-type: none"> 自然などの話をしていたため。 自分が学んできたことを教えてくれたから 鹿肉が美味しいと初めて感じたと言っていました。 自然がいっぱいと改めて気づいた いぶり自然学校と、沼田町、フォレスト鉱山などは絡みはありますが、ほかの自然学校のイベントなども参加してみたいと言っています。 北海道の動物に触れ合うことができ、北海道の他の地域でも見たことのない動物を見てみたいと思った。 初めての経験ばかりで新鮮だったようです。 北海道の各地を旅行に行くようにはしているのですが、旅行よりも滞在に近い経験を、あるいは自然の中で暮らす、という普段の生活とは全く違う時間を過ごし、どさんこなどの知らなかったことを知るのはもちろん、北海道の歴史、開拓時代どうしていたかなど、より想像して学びたい意識が強くなったと思います。 |
| | <p><3. どちらでもない>の回答者の答え</p> <ul style="list-style-type: none"> 今のところ、子どもの言動にその様子は見えませんので「どちらでもない」としています。 |
| | <p><2. あまり変化はなかった>の回答者の答え</p> <ul style="list-style-type: none"> 今のところ変化があったように感じる言動はないため 自然や動物に関する興味は深まったようだが、地域に関することはあまり話していないため。 |

Q：本プログラム前後で、「アドベンチャートラベルガイド」という職業に対する意識の変化はありましたか？（n=12）



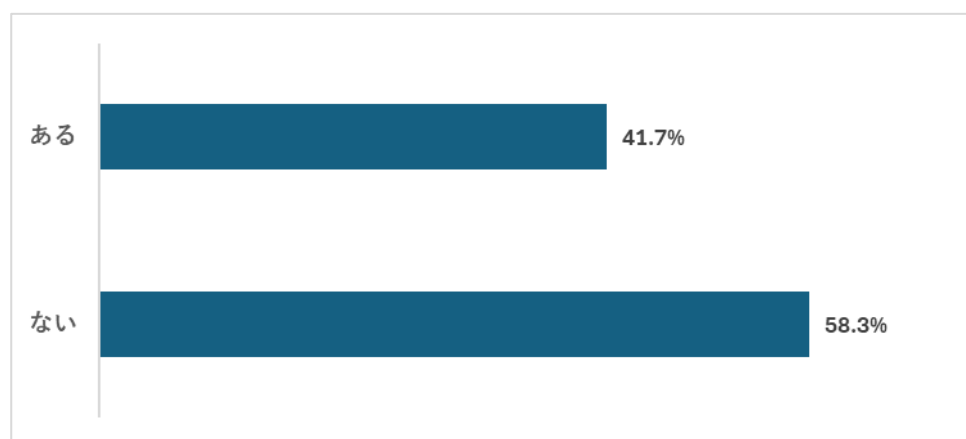
| 理由 | 回答内容 |
|----|---|
| | <p><5. とても変化があった>の回答者の答え</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 親子共々初めて聞く職業でしたが、帰宅してからも荒井さんのすごさを物凄い熱量で語っていました。 ・ 数学もたくさん使うんだよーという話を聞いて、自分は得意かもしれない!!と書いていました |
| | <p><4. 変化があった>の回答者の答え</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 本物のアドベンチャートラベルガイドと初めて接して、こういう職業があると認識が深まったと思います。ただ、アドベンチャートラベルの要素がどれだけ散りばめられていたかわからないので、(一般的な)アクティビティガイドという認識を持っているかもしれません。「ガイドはなんでも知っている」「カッコいい」と感じてくれればそれはそれで十分かもしれません ・ 職業の内容などを話していたため。 ・ 国土交通省の観光部にはこんな人がいたよと教えてくれたから ・ 今回、初めて子供が関わらせてもらい、素晴らしいお仕事だと思いました。普段できないことを専門家のもと、体験できることは、親にとってとても魅力的でありがたいことです。 ・ トラベルガイドさんが楽しそうだったと言っていました ・ 子どもからあまり話を聞けなかったのですが、ATガイドの印象はあまり変わりませんでした。スルーガイドという仕事は、4日間ずっと子どもたちと過ごし、天候に合わせて臨機応変にプログラム内容を変え、学びを提供していく、とても大変でタフな仕事なのだと認識を新たにしました。 ・ 元々、ATガイドというものを知らなかったのですが、そういうものがあるということを知ったこと、内容に関してはあまりまだわかっていないようですが、よりそのワードに対して反応するようになったと思います。 ・ 今まででは全く知らなかった『ATガイド』という存在を認知したことが大きいと思う。 |

| | |
|--|---|
| | <p><3. どちらでもない>の回答者の答え</p> <ul style="list-style-type: none"> 元々生き物やキャンプが好きなので自然にかかわる職業は楽しそうと感じたのではないかと思います。 <p><2. あまり変化はなかった>の回答者の答え</p> <ul style="list-style-type: none"> 思っていた通りの職業だった |
|--|---|

Q：今後、子供たちが「アドベンチャートラベルガイド」という職業に興味関心を持つために、どのようなプログラムや取り組みがあると良いと思いますか？ (n=12)

| | |
|----------------------|--|
| <p>プログラムや 取組</p> | <ul style="list-style-type: none"> 今回のように自分がやりたい事をやらせていただいたり全てのことを本人が無理のないように進めていただいたおかげで積極的に興味を持てたので、今後もやりたいことをやればいい！という方針は大事だと思いました。今回は冬のプログラムでしたがほかの季節はどうかかなーと話していました。 子ども達がアドベンチャートラベルの要素を感じて理解することも大切ですが、それと同じくらい「アドベンチャートラベルガイドってカッコいい」と思うようなプログラムになるのが理想かと思います。 今の体験で良いと思います 野外活動、学校等での総合学習での出前講座があれば、こういう職業もあることがわかる 日帰りや短期間での体験ツアー。 林間学校 切り倒した木材を使った木工が楽しかったと言っていたので、そういった材料を使ったモノ作りも良いのではないかと思います。 2泊3日くらいで、有料でも高額でなければ同じようなプログラムをどんどん企画してほしいです。周知が広がれば参加したいと思う人は多いと思います 滞在日数の短いプログラムなど、気軽に参加できるものもあると良いと思う。 高校生対象に、ATに関するテーマで体験し学んで、自ら考えてプログラムを作り、最終日にお客さんに対してガイドを試してみるというような、ATガイドを模擬体験するプログラム。ガイド側の目線で考え、体験することにより、よりじぶんごととして、自分に合うか、なりたいと思えるかを考えるきっかけになると思います。修学旅行など、事前、事後学習もできる教育旅行プログラムのひとつとして、自走できると広がりが出ると思います。(SDGsをテーマにした教育旅行プログラムのひとつとして、1つの学校の修学旅行の中でも、複数グループに分かれて、複数の体験をする場合があるそうなので。) 今回は荒井さんのやっていることがATだと思っているようなのですが(野生動物に詳しい、山登りをしている)、このトレイルブレイザーズの次の段階として、本当のガイドツアーに参加する(森探検グループは少しガイドしてもらったと聞いています)、ATガイドのバリエーションをもう少し知ったりできる(最初は川下りとの話などもあったので)と楽しいかなと思います。 今回は冬のプログラムだったが、夏に行くプログラムがあったらまた違う体験ができて楽しそう。また自然と合わせて文化の部分を学ぶ時間があると、より地域のことに興味が湧くと思う。 |
|----------------------|--|

Q：プログラム参加前に事前に知りたかったこと、不足していた情報はありますか。(n=12)

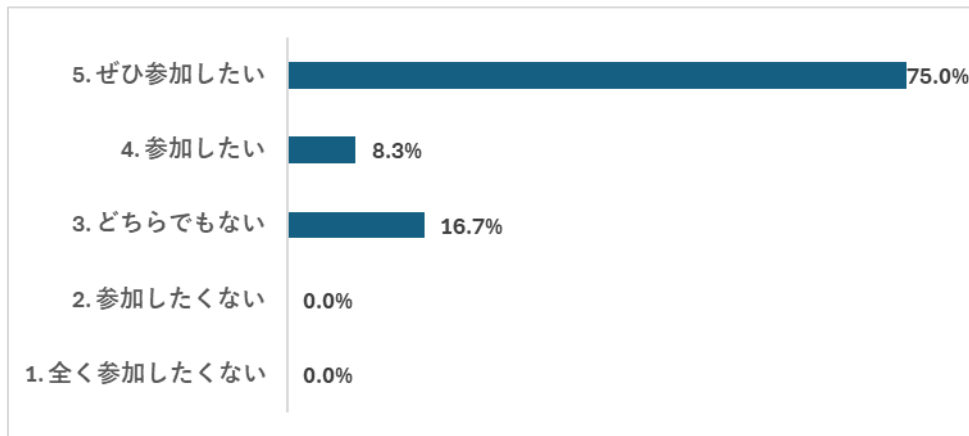


Q：上記にて「ある」と回答された方へ。

事前に知りたかった、不足していた情報について具体的にお聞かせください。

| | |
|---------------------------|--|
| <p>事前に知りたかった、不足していた情報</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・ 食育の観点からと思いますが、食事を残してはいけないといわれたことが辛かったようです。元々食が細いので事前に確認しておくべきだったと思いました。 ・ お友達と一緒に食べようと思ってお菓子を用意していったが、実際はアレルギーの関係で交換しないように言われたとのことだった。事前に案内があると良かった。 ・ 当日の様子を毎夜報告していただけるのか前日までに知りたかったです。(説明会では検討するとの回答で終わっていた気がするので、心配でした。) ・ 事前の説明では、4日間のスケジュールの中で、ATガイドの話がどう組み込まれるのかわからず、子どもたちに事前に話ができなかったのもう少し詳しい内容を知りたかったです。 ・ ガイドの荒井さんから、事前説明会で直接話を聞きたかったです(個人的に荒井さんのことを知っていたので、子どもたちに面白い人だよ！と話しましたが、知らない方がガイドさんだったら親子で不安だったと思うので。) ・ 自分で調べて場所などで予測していたところですが、お風呂について、滞在場所からどのくらいの時間がかかるなど分かったと良かったと思います。(事前説明の時にあったのだったらすみません。冷えてトイレが我慢できなかった子がいたと聞いたので) 大人には分かりにくいのですが、トイレは頻繁な子は頻繁なので、移動の時は寝ていても1時間ごとくらいには通知してもらえると有り難いです。あるいは事前に移動時間を教えて頂いて、子供に言うておくことはできると思います。 ・ おやつシェアがNGなこと。(アレルギーの関係で、学校の遠足では当たり前なのですが…あまり考えずにたくさん持たせてしまいました) |
|---------------------------|--|

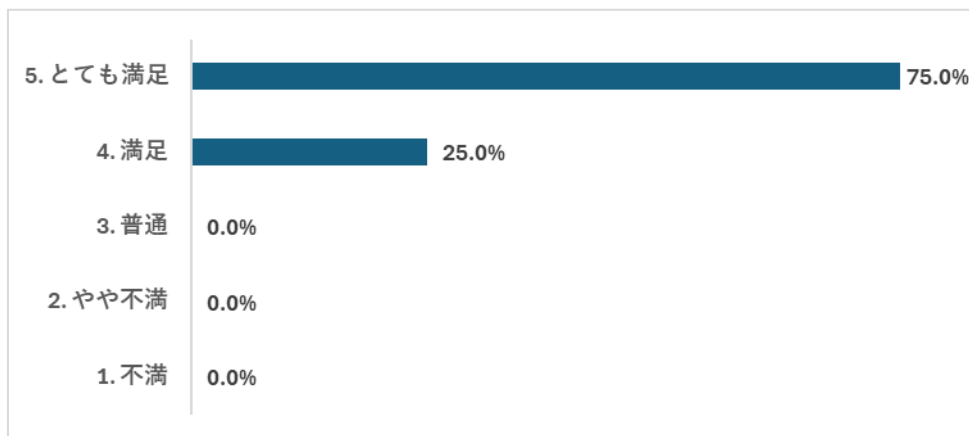
Q：次年度以降、同様のプログラムがあれば参加したいと思いますか？（n=12）



| 理由 | 回答 |
|----|--|
| | <p><5. ぜひ参加したい>の回答者の答え</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「楽しかった！まだ居たかった！」とお喋りが止まりませんでした。翌日もずっと話しています。親としても、本人のこんな楽しそうな笑顔を見るとまた参加できたらいいねという気持ちでいっぱいです。 ・ 親子の関係ではなく、知らない環境にじっくり身を置いて体験することで、普段と違う角度で身につくことがあると思うから。教育は一度だけではなく何度も体験することが大事だと思うから。年齢が募集要件に満たなかった下の子どもにも体験させたいから。 ・ 本人が行きたいと言っているから ・ 今回での子供の満足度がとても高いので。 ・ 今まで、こういうイベントの参加を促しては行きましたが行きませんでした。今回参加したことによって子供もまた参加したいと言ったからです。 ・ 同じような思考、思想の友人も多いので、今回は国土交通省の補助もあり無料でしたが、少し参加費を支払っても参加したかった！と周囲の友人のお話もありましたので、また企画してほしいです。 ・ プログラム全体の質が高く、子どもたちの満足度、成長度合は高かったですが、ATガイドのことに关してはあまりこどもの記憶に残っていないようだったので(帰りにどんなこと学んだのか聞いたら、忘れた一と言われてショックでした。我が子の記憶力の問題なのでどうしようもないですが…) ・ 全く同様の内容だったら、参加するか分かりませんが、難易度や参加頻度などによって内容を少し変えるのであれば是非参加したいと思います。主な理由は次の設問の答えのように満足度が高かったからです。(参考：次の設問の答え→手探り感があったものの、今までにないプログラムだったのではないかと思います。一緒に色々と考えながら過ごした仲間ともかけがえのない時間になったようです。予定調和的なものが多い学校でのイベントや飽きさせないように作られたプログラムと違って、本当の自然と過ごす時間、それには本物のATガイドの協力なしには安心して親は任せられないと思うので、他のものとは違う特別な滞在プログラムだと思います。) ・ 娘が「まだ居たかった！」と言うほど楽しんで帰ってきたこと。自然の中での体験、動物との触れ合い、新しいお友達との出会い、どれを取っても貴重な体 |

| | |
|--|---|
| | <p>験だったから。</p> <p><4. 参加したい>の回答者の答え</p> <ul style="list-style-type: none"> 動物のエサやりや雪遊びが楽しかった。 <p><3. どちらでもない>の回答者の答え</p> <ul style="list-style-type: none"> 子供が対人関係で少し疲れたと言っていたため。 本人の気持ち次第です。親としては本人が希望すれば参加させたいです。 |
|--|---|

Q：プログラム全体の満足度について当てはまるものをお選びください。(n=12)



| | |
|----|---|
| 理由 | <p><5. とても満足>の回答者の答え</p> <ul style="list-style-type: none"> 同じ北海道と言えど、豊かな自然の中で3泊も過ごすことは中々機会がありません。そんな中で、今回のような動物に触れ合えお世話したり、焚き火をしてご飯を食べたり、思いっきりみんなで雪遊びすることができてとても満足しております。本人はみんなで大きなお風呂に入れたこともとても楽しくて、みんなで部屋で寝るのも楽しかったようです。 本人の感想を聞いて、そう思ったから 普段出来ない貴重な体験ができたため。 自然に、たくさん触れ、初めて親元を3泊離れ、迎えに行ったときには少しお兄さんの顔つきになっていました。 とても楽しかった、学びをたくさん得られた、また機会があったらぜひ参加したいと言っていました シマエナガが見れた、鹿肉が美味しかったなど家では経験させてあげられないことが体験できました。初めてひとりで3泊し、少したくましくなったと思います。普段は食べ物の好き嫌いが多いのですが、頑張って食べられたものもあったようで良かったです。 プログラム全体の質の高さ、荒井さんやスタッフの方々のこどもたちへの接し方のすばらしさを、子どもを通じて、また保護者への情報共有内容などから感じたため。 手探り感があったものの、今までにないプログラムだったのではないかと思います。一緒に色々と考えながら過ごした仲間ともかけがえのない時間になった |
|----|---|

| | | |
|--|---|--|
| | <p>ようです。予定調和的なものが多い学校でのイベントや飽きさせないように作られたプログラムと違って、本当の自然と過ごす時間、それには本物のATガイドの協力なしには安心して親は任せられないと思うので、他のものとは違う特別な滞在プログラムだと思います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ プログラム全体の内容・質が素晴らしく、隙間の余暇時間も含めて全て楽しかったようです。帰ってきてから、娘の話が止まりませんでした！（こんな体験をした、ニワトリを抱っこした、馬の世話のこと、雪遊び、お友達とのカードゲームの話、ごはん作り、等々） <p><4. 満足>の回答者の答え</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 世界クラスのアドベンチャートラベルガイドがアサインされていたから。 ・ 日頃できない体験を沢山させて頂き満足しています。 ・ 普段日常ではできない経験をさせていただいてありがたく思います。楽しかったことも大変だったこともたくさんあったようですがそれも含めて本人の貴重な経験になったと思います。 | |
|--|---|--|

Q：全体を通じた感想等がありましたら、自由にご記入ください。

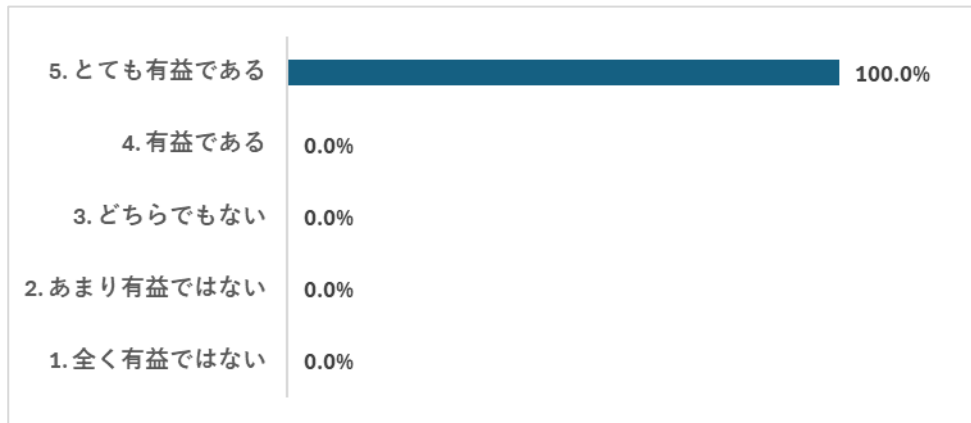
| | | |
|-------------------|---|--|
| <p>全体を通じた感想など</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・ 至る所で、大人の目が行き届いているのがとても分かりました。毎日のメールでの報告と写真も、親としてはとても安心しました。子供たちは熟睡している中、その間も忙しくなく仕事や準備後片付けなど本当にお世話になりました。感謝しかありません。本人も今回のプログラムに参加できて、これから過ごしていく上での自信にも繋がったと思います。本当に皆さん1人1人に頭を下げてまわりたいくらいです。ありがとうございました。 ・ 初めての体験を沢山することで自信にもつながり、ゲームや、携帯からも離れ、知り合いも沢山できたことに喜びを感じましたが、一部対人関係で嫌な思いをしたとも言っており、そのような環境で過ごすこともまた、ある意味いい経験になった（勉強になった）のではないかと思います。このような素敵な体験を色々させて頂き本当にありがとうございました。また機会があれば、ぜひ参加させて頂きたいと思います。お世話になりました！ ・ とても充実した日々を送ったみたいです。ありがとうございました。 ・ いつもインドアの子供が、意外にも行きたいと興味を持ったことが参加のきっかけでした。親としては3泊4日なんて不安と心配がなく、無理だと思いましたが、帰ってきた時の満足そうな笑顔を見て本当に送り出して良かったと実感しました。確実に子供の中で、今までと考え方や行動が変わったと感じます。ゲームばかりの生活だったのですが、少しでも自分からお手伝いをしたり、何かにチャレンジしようとする姿勢が見れてうれしい限りです。支えてくれたスタッフの皆さんには感謝しきれません。みーんな優しく、ほんとーっに楽しかったんだーと言っております。このような機会をいただきありがとうございました！ ・ 途中でちょっとしたケガもあり最後まで参加できるか心配でしたが、最後までやり遂げることができて成長を感じました。食事は食べきるのが大変だったようですが、初めて食べた鹿肉がおいしかったと言っていました。また、皆で行 | |
|-------------------|---|--|

| | |
|--|---|
| | <p>った温泉も楽しかったようです。いろいろな思い出ができたのではないかと思います。スタッフの皆さんには迷惑をおかけしたかと思いますが、温かく見守っていただき感謝しています。ありがとうございました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 暖かく見守っていただき、子どもたちが全員事故なく無事楽しく過ごせたことに感謝いたします。非常に素晴らしい機会を与えてくださり、ありがとうございました。 ・ 携帯やデジタル機器を持っている子もなく、基本的なルールを守れる子達ばかりだったようで、住所を交換しあったお友達とも文通が始まったようです。自宅が小樽なのですが、小樽に来てみたいと連絡をもらったようで、札幌から来て分りやすい場所があるので手紙で説明したりして、自分たちで会うことができるのか見守っています。プログラムが終わってからも交流が続いているようで、本当に有難い経験でした！ ・ スタッフの皆さんの細やかな対応に感謝しています。親と離れて初めてのお友だちと過ごす時間、最初は不安な気持ちもあったと思いますが、帰ってきた娘の顔を見たら本当に楽しんで帰ってきたんだと感じました。毎日の活動報告ありがとうございました！！ |
|--|---|

2-3-5. アンケート結果

<学生>

Q：本プログラムへの参加は、あなたにとって有益であると感じましたか。(n=3)



| | |
|----|--|
| 理由 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 荒井さんがアドベンチャートラベルガイドとしてやられている活動について身近に感じる事ができ、とても良い時間となりました。また、子どもとの付き合い方も勉強になる部分も多く、これからに生かせることが多々あったように感じています。 ・ ATについて知ることができたから。 ・ 自然教育のあり方について考える素敵な機会になりました。子どもたちのイキイキした姿がとても印象的で、学生ボランティアの私としても荒井さん、上田さん、運輸局の方々など個人的に沢山のお話を聞くことが出来てとても有益な時間だったと感じています。 |
|----|--|

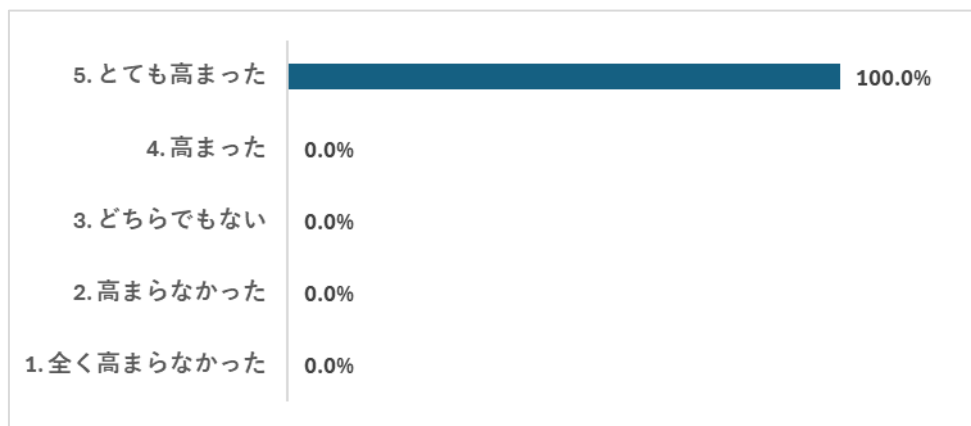
Q：本プログラムに参加して良かったと感じた点について教えてください。(n=3)

| | |
|-----------|---|
| 良かったと感じた点 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 初めて会う子どもたち、ボランティアの方々と3泊4日過ごす中で、子どもたちの成長する姿を目の当たりにすることが出来て、とても良い体験となりました。また、私自身も子どもたちとどのように接すればいいかなど自分なりに考え、活動に取り組めたことは非常に良い体験となりました。 ・ プロのアドベンチャートラベルガイドの方から教えていただいた点。 ・ 自然教育のあり方を学ぶことができました。 |
|-----------|---|

Q：本プログラムで次の項目での改善点を教えてください。

| | |
|--------------|--|
| 【屋外活動】 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 特にはありません。各々やりたいことを見つけて取り組んでいる姿に感激しました。 ・ 子どもたちの危険な遊びをどこまで放任するのがそれぞれの大人の裁量によってしまうのでマニュアルがあったらいいかもしれません。 |
| 【生活面（食事・滞在）】 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 女子部屋が薪ストーブのみだったため、朝少し寒いことがありました。これも1つの体験であるため、そこまで気にはしていませんでしたが、子どもたちも寒いとは言っていました。毎回とても美味しい食事を準備して下さり、ほとんどの子どもたちが残さず食べていたので感心しました。しかし、本当に少ししか食べていない子もいて、足りているのか心配になる面も少しありました。 |
| 【日々の振り返り】 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 改善点は特になし |
| 【スタッフミーティング】 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもたちが寝ていたこともあり、あまり大きな声で話すことができず、少しやりづらい部分もありましたが、特に改善点はなかったと思います。 |

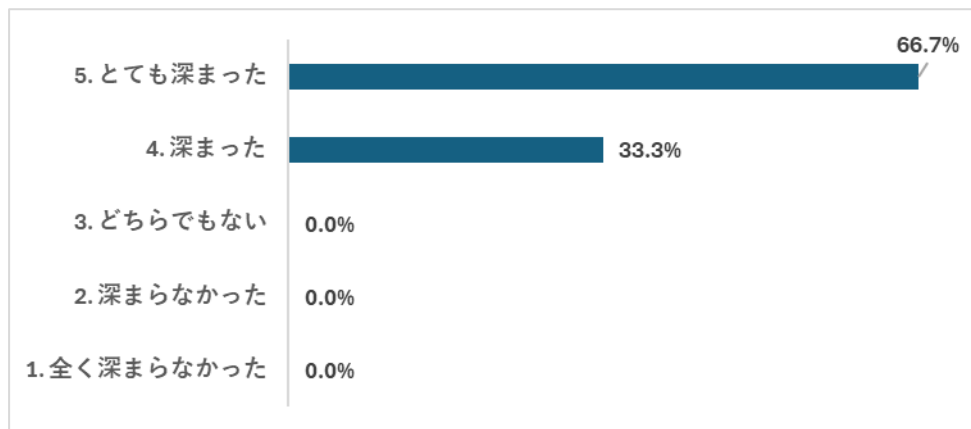
Q：本プログラムに参加したことで、旅行や野外活動に関する関心は高まりましたか？(n=3)



| | |
|----|--|
| 理由 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 野外活動には元々興味はありましたが、今回参加してみて、より自然と触れ合う活動に参加してみたいと思うようになりました。 ・ 荒井さんや常井さんと観光業についてお話をし、今までのスタンプラリーのように周っていく観光ではなく自己変革を促すアドベンチャートラベルについて深く知れたからです。 |
|----|--|

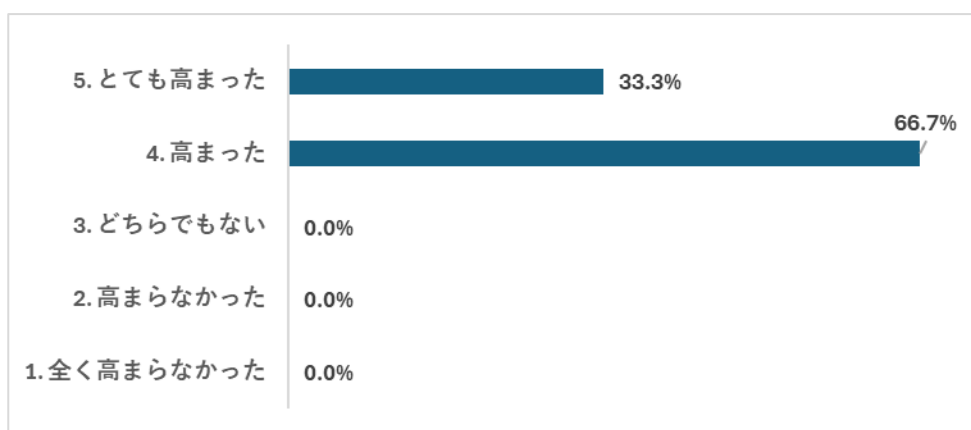
- ・ やっぱり、子供にとっても大人にとっても1番の財産になるものが経験なのだなと感じました。ただ観光地を回る旅行より、特別な経験ができる旅を大切にしたいです。

Q：本プログラムに参加したことで、地域（北海道）への理解は深まりましたか？（n=3）



| 理由 | 回答者の答え |
|----|--|
| | <p><5. とても深まった>の回答者の答え</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 北海道ならではの木や鳥に出会うことができ、新たな発見をすることができました。 ・ いぶり、大雪と、環境が違う二つの自然学校のお話を聞くと、特に冬は経験できることが変わってくるなと思いました。地域によって気候の特色が大きく違う北海道は魅力的だなと感じました。 |
| | <p><4. 深まった>の回答者の答え</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 北海道でしかできないような体験をすることができたから。 |

Q：本プログラムに参加したことで、将来の職業選択肢の一つとして、あなたにとっての「アドベンチャートラベルガイド」という職業への魅力は高まりましたか？（n=3）



| | |
|----|---|
| 理由 | <p><5. とても高まった>の回答者の答え</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ アドベンチャートラベルが何か考えれば考えるほど、私の理想とする経験や旅のスタイルだなと思って目を輝かせながら学んでいました。 <p><4. 深まった>の回答者の答え</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 元々、「アドベンチャートラベルガイド」という仕事を知らなかったので、荒井さんの姿をみて、子どもとの接し方なども含め学ぶ事が多く、良い機会となりました。 ・ 荒井さんとお話することでアドベンチャートラベルガイドの解像度が上がったため。 |
|----|---|

Q:「アドベンチャートラベルガイド」という職業選択にあたり、課題や不安だと感じることはありますか？また、その課題や不安を解消するためのご提案があればお聞かせください。

| | |
|----|---|
| 回答 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 「アドベンチャートラベルガイド」という職に着くには様々な知識が必要だと感じ、少しハードルは高いように感じました。 ・ 給料がどうなっているのか、自己プロデュースが大変そう、スキルを身につけるのが大変そう。 ・ 語学力が必要だと思うので、不安を感じる人が多いのかなと思います。 |
|----|---|

Q:「アドベンチャートラベルガイド」という職業が、職業選択を考える世代の若者に認知・選択されるために、今後どのようなプログラムや取り組みがあれば良いと思いますか？

| | |
|----|---|
| 回答 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 今回のプログラムのように実際に見て学んでもらうことが必要になると考えます。その中でも、自然に興味があるなど少しでも関心がある人たちに参加してもらうことが必要であると考えました。 ・ 今回のような取り組みや対象を中高大学生にしたものを行う。 ・ 養成講習会のようなもの |
|----|---|

Q:本プログラム全体のご感想をお聞かせください。

| | |
|----|--|
| 回答 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 今回、年始の開催だったこともあり、少し参加するか迷ったのが正直なところです。しかし、3泊4日子どもたちと活動してみて、本当に参加してよかったなと感じることが多くありました。子どもたちの成長を見れたこと、ボランティアスタッフの良さを発見できたこと、子どもとの接し方などを学べたこと、動物たちとたくさん触れ合えたこと、たくさんのかんじ、吸収することができました。今回、子ども達との関わりに加え、上田さんと菊地さんと食事の準備をすることがありました。子どもたちが思いっきり遊んで、それを支えるスタッフがいて、またその影で、みんなのことを支えてくれている人たちが多くいるということを感じました。以前私が子ども側で参加していたこともあり、より感謝の気持ちや恩返ししたいという気持ちが湧き上がって来ました。このような貴重な体験をさせて頂けて、感謝の気持ちでいっぱいです。また、 |
|----|--|

| | | |
|--|--|--|
| | <p>このようなプログラムがありましたら、ぜひ参加させて頂きたいと考えていますので、よろしくお願い致します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 将来を考える時に、今回のキャンプを思い出して行動する子供が1人でもいれば嬉しいなと思いました。キャンプディレクターの方々や講師の方々一人一人の知識と技術が大きく、とても質の高い教育キャンプだと感激していました。ただ、今回のキャンプについては税金から予算が出ていて参加費が無料との事だったので、様々な事情で恵まれない子供たちにもこの質の高い教育ができれば、もっといいのかなと考えながら今回のキャンプを振り返っていました。四日間本当にありがとうございました。 ・ 色々な学びを得ることができて、とても楽しかったです。貴重な機会をいただきありがとうございました！今回の学びは以下に書いてみました。 ・ <観光業としてのATと教育ツールとしてのAT>1番印象に残ったのが、動物が怖くて苦手だった女の子が馬のななちゃんのお世話をすることで「はじめて動物がかわいと思った」と言っていたことです。このような小さな気づきが積み重なることで成長していきます。それもアドベンチャートラベルだからこそできることだと思いました。ここで改めて感じたのが、「アドベンチャートラベル(AT)って観光だけでなく、教育ツールとしてもめちゃくちゃ使えるじゃん！」ということ。実際、今回のキャンプは北海道運輸局観光部や北海道アドベンチャートラベル協議会などがタッグを組んで開催していましたが、単なるツアーに終わっていませんでした。むしろ、子どもたちが自然や動物を通じて身体で学び、さらにそれを振り返る時間を設けることで、ものすごい体験学習の場になっていました。「未知の世界への一歩」「座学では学べないリアルさ」「コミュニケーション能力の向上」など、一つのプログラムとして観光客を呼び込む経済効果も大きいですが、それ以上に「自然を舞台にした総合学習の場」としての役割がありそうです。 | |
|--|--|--|

・プログラム実施中の振り返り結果

プログラム実施中、本プログラムを実施するATガイド及び補助する学生を対象とした振り返りの機会を設け、プログラムに関する課題の掘り起こし、改善策の検討を行った。

【Day 1】 1月4日(土) 21:30~22:00 振り返り

●学生A

- ・参加者の子供達に素直で礼儀正しい子が多く運営としてはスムーズに進行がしやすいと感じた。

●学生B

- ・久しぶりの子供キャンプスタッフなのでブランクを感じている。感覚を取り戻していきたい。

●学生C

- ・荒井さんや上田さんなど、スタッフの方々を見ていても勉強になるので、明日以降良い部分を吸収して頑張っていきたい。

●運営スタッフA

- ・良くも悪くも時間通りに進んだ1日だった。普段のこういったプログラムでは、もう少し時間に関して柔軟に進行している。というのも、子供がもう少し遊びたいだったり、こんなことに熱中したいということがあったら、出来る限り運営側の努力で、それに対応できるような進行

をしている。時間通りであるということが、良いとか悪いとかではなく、時間通りに進んでいるイコール子供たちに無理をさせていないかな、という部分は懸念点としてある。ただし、動物への餌やりや世話は時間が決まっていること。なので、例えば、動物の餌やりをするグループと、まだ遊びたいというグループと、別れることもできる運用がスタッフ側としてはできると良いのかなと思う。そうするとこのプログラムをより良くすることができるのかなと思う。

●アドベンチャートラベルガイド荒井

- ・子供の成長を最大限促すためのセーフティネットの存在

今日の活動でも、1時間ほど外探索をした後に、そのまま夕飼いに行けるかなともふと思ったが、子供たちの中で3人くらいは靴が濡れていたし、寒さを感じてる子も何人かいたので、それを見て、そのまま夕飼いに行くのではなく一旦室内での休憩を挟んだ。子供達にとっては、その場のテンションなどで、そのまま後1時間外での夕飼いの活動をして良かったかもしれないが、この寒い気温の中であと1時間活動を続けていたらどうなかったかなど、子供自身も学びになったと思う。大げがをしない（小さな）げがはいっぱいしておいた方が良いと思う。だから、この室内に、いつでも温まることのできる薪ストーブがあって、寒くても自由に帰れるスペースがあって、そこで自由に遊んでいられるという存在（セーフティネット）は効果的なプログラム実施にあたって重要な役割である。

- ・セーフティネットが確保できた後の次のステップ

セーフティネットが確保できた後の、（運営側の）次のチャレンジとしては、子供たちがやりたいことにひたすら取り組める環境をどう整えられるか？という所。ただ、そのためには運営サイドやスタッフが、このフィールドの環境や状態を熟知している必要がある。その2点が引き続きやることかなと思う。

●運営スタッフ A

- ・子供たちの安全管理における運営側スタッフのジャッジ（判断）について

基本的には、最大限の愛を持って見守るだけ、というのが良い。その際、自分がその時感じている感情を口に出して子供に伝えても良い。私は今ハラハラしているとか、ソワソワしているとか。ただし、致命傷に至りそうな状況であれば即ストップをかけるべき（重たいもの、尖ったもの、熱いものなど）。子供は、基本このようなプログラムの初日は、ボクシングで言うとジャブを打っているようなイメージ。特に大人のスタッフに対しては、どこまでやったら怒られるかなど。なので、致命傷に関わるやっちはいけないことはすぐレッドカードで止めに入るが、イエローカード（注意等のレベル）に関しては、大人側もどこまで受容できるかというのが業界的なスタンス。そうすると、子供の方から内発的に、今のはいけなかったかなとか、やりすぎたかなとか、子供自身で考え気づくことができる機会となる。あとは、運営で言うと、判断に迷ったら、ディレクター（今回で言うと荒井氏）に判断を相談する。

【Day 2】 1月5日（日）21：30～22：00 振り返り

●学生 C

- ・プログラム2日目になり、参加者の間での関係性が少しずつ構築されて、チームとしての一体感が出てきた。安心して活動できる環境なのだとか子供達を感じ取ったことで、子供達自らこんな活動をしたい、こっちの活動を選びたい、など意思表示をできるようになったのではないかと感じた。

●学生 A

- ・昨夜の振り返りでの「見守る」という話を受けて、今日はスタンスを変えてみた。初日は結構子供達に構うスタンスで接していたが、今日は放任主義みたいな形で接することにした。

それでも、子供達は自発的に活動に取り組んでいたもので、放任主義で良いのだな、という気持ちがあった。

- ・2日目で子供達の活動が活発になるということもあって、ケガの心配もしていたが、今日も大きなケガが発生せず良かった。

●運営スタッフB

- ・木の伐採の時には後ろで見ていた子達も、薪割の時には自分の世界に没頭してやり続けるなど、それぞれの興味にあったアクティビティが運営側で設定できると良いのだなと感じた。

●アドベンチャートラベルガイド荒井

- ・子供達が集中力を持って没頭できる環境を作れていたのが良かった

あるチームは雪だるまを作り、あるチームはひたすら薪割をし、あるチームは雪で遊ぶなど、それぞれのやりたいことに、それぞれが集中力を持って没頭できる環境が作れていたのが良かった。ふと気づくと15時半の夕餉いの時間になっていたが、「やりたいならまだ続けてもいいぞ」と言ってあげられる大人がいたのが子供にとって良かったと思う。(子供がしたいことを)受容してくれる、認めてくれる大人の存在は子供の成長にとって重要。そのように、自己受容が積み重なって子供自身が満たされた状態になると、例えば最後は、「これこれしてね」という大人の依頼に対しても、自分が満たされている状態なので、比較的「うん」と言って前向きに活動に取り組んでくれる。これは、単純に、期間が延びれば(例えば、今回のプログラムのような子供キャンプが仮に2~3週間続いたものだったりしたら)より、その効果や影響は高いものになる。

【Day 3】 1月6日(月) 21:30~22:00 振り返り

●学生A

- ・日が増すごとにチームワークや団結力が強まっていると感じた。仲良くなりすぎたことにより、多少の小競り合いもあるのが、少し懸念ではある。最終日まで大きなケガや事故なく終えられるよう引き続き対応する。

●学生C

- ・これまでの2日間ではあまり見られなかった男女が混じって遊ぶ光景が3日目の今日は見られた。きっかけは、男の子達が雪合戦をやっていたのを見ていた女の子達に、学生Bが声をかけたことで、女の子達も雪合戦に参加したこと。楽しく皆で遊べたので良かったと思う。
- ・女の子が男の子の名前を覚えていない、という話は女の子からあがっていた。

●学生B

- ・今回のキャンプのとても価値がある部分として、本来点在している色々な自然学校の指導者に一つの機会に直接触れることができること。そこにすごいびっくりしている。すごい経験を持った方々が実際に子供キャンプを運営する姿を間近で見ることができて、それをスタッフとして自身が運営に関わることで直接学びを得られるというのが、何にも代えがたい機会だと感じている。

●アドベンチャートラベルガイド荒井

- ・馬の特性を活用した子供の成長を促すプログラムの話

人間同士や人間と馬との間のコミュニケーションには言語コミュニケーションと非言語コミュニケーションがある。人間の世界では、基本的に言語コミュニケーションの中で、指示が出され、指示されたことができたなら自己肯定感が高まるし、その指示に求めることができなかつたら、自分ではできなかったという感覚が残る。また、それは人間同士のコミュニケーションの話だが、人と馬のコミュニケーションで難しいのは、自分の体を思い通りに動かすだけではな

く、その結果として馬とコミュニケーションがとれるか否かという所。子供の自己肯定感を高めるには（できたという感覚や、自分ならやれるという感覚）、子供が何かをきっかけに行動した結果、その後成果がちゃんと出るという所をまわりにいる大人がサポートできると、子供は成長感を得られる。そのようなサポートの存在やあり方が重要。

・学生へのヒアリング結果

ATガイド等を職業として選択する際の課題、課題解消に向けた提案等のヒアリングを行った。下記はヒアリング結果である。

<ATガイド等を職業として選択する際の課題>

- ・収入面における不安定さ
- ・効果的な自己プロモーションの難しさ（ガイドとしての能力や経験を適切にアピールし、顧客を獲得するための戦略やノウハウが必要となると考えられるが、その習得や実践には難しさが伴うと感じる）
- ・専門的なスキルの習得と維持

<課題解消に向けた提案等>

アドベンチャートラベルガイドの認知度向上と、職業選択における適切な情報提供を目的とした施策を展開する必要がある。具体的には、以下の取り組みが有効と考えられる。

アドベンチャートラベルガイドとの交流機会の提供：

学生や若年層など、職業選択を検討する段階にある人々を対象に、アドベンチャートラベルガイドと直接交流できる機会を設ける。ガイドの仕事内容や魅力、やりがいなどを具体的に伝えることで、職業としての理解を深め、将来のキャリアパスとしての選択肢を広げることが期待される。

情報提供手段の多様化：

ウェブサイトやパンフレット、SNSなどを活用し、アドベンチャートラベルガイドに関する情報を積極的に発信する。仕事内容、必要なスキル、資格取得方法、キャリアパス、収入、働き方など、多岐にわたる情報を提供することで、職業選択における判断材料を提供する。

3. 成果目標と成果指数

3-1. プログラム造成・実施数

| 指標 | 目標 | 実績 |
|------------|-----------|---------|
| 参加する小学生の人数 | 10名以上 | 13名 |
| 参加する大学生の人数 | 男1名、女1名以上 | 男1名、女2名 |

3-2. 小学生等へのアンケート回収件数

小学生へのアンケート 回答依頼件数 13件 回収件数 13件 回答率 100%

| 指標 | 目標 | 実績 |
|---------------------|------|------|
| 本プログラムに関して満足したとする回答 | 5割以上 | 10割 |
| 旅行や野外活動に関する好意的な回答 | 5割以上 | 10割 |
| ATガイドへの興味が増したとする回答 | 5割以上 | 8.5割 |

保護者へのアンケート 回答依頼件数 12件 回収件数 12件 回答率 100%

| 指標 | 目標 | 実績 |
|---------------------|------|------|
| 本プログラムに関して満足したとする回答 | 5割以上 | 10割 |
| 旅行や野外活動に関する好意的な回答 | 5割以上 | 9.1割 |
| ATガイドへの興味が増したとする回答 | 5割以上 | 8.3割 |

学生へのアンケート 回答依頼件数 3件 回収件数 3件 回答率 100%

| 指標 | 目標 | 実績 |
|---------------------|------|-----|
| 本プログラムに関して満足したとする回答 | 5割以上 | 10割 |
| 旅行や野外活動に関する好意的な回答 | 5割以上 | 10割 |
| ATガイドへの興味が増したとする回答 | 5割以上 | 10割 |

3-3. 今後のガイド人材確保に向けた効果的な施策の提案

<AT ガイドからの感想及び提言>

・高校生年代への展開

今回の事業では、小学生を対象としたATガイドと触れる体験を通じて、ATの認知度向上およびATガイドへの興味関心の促進に一定の効果が見られた。この結果を踏まえ、今後は対象年齢を拡大し、高校生年代への普及啓発活動を実施することが有効と考えられる。高校生年代であれば、ATガイドの役割や仕事内容に対する理解をより深めることができ、将来のキャリアパスを考える上で重要な判断材料となることが期待される。

<学生からの感想及び提言>

・ATガイドとの交流機会の提供

学生や若年層など、職業選択を検討する段階にある人々を対象に、ATガイドと直接交流できる機会を設ける。ガイドの仕事内容や魅力、やりがいなどを具体的に伝えることで、職業としての理解を深め、将来のキャリアパスとしての選択肢を広げることが期待される。養成講習会のようなものや、実際に見て学んでもらうような機会も有効ではないかと考える。

・情報提供手段の多様化

ウェブサイトやパンフレット、SNSなどを活用し、ATガイドに関する情報を積極的に発信する。仕事内容、必要なスキル、資格取得方法、キャリアパス、収入、働き方など、多岐にわたる情報を提供することで、職業選択における判断材料を提供する。

<保護者からの感想及び提言>

・他季節におけるプログラム実施

冬季に限らず、夏季をはじめとする他季節においても同様のプログラムが実施されることを期待する。(アンケート回答者12名中2名)

・“ATガイド”の魅力訴求

子供たちがATの要素を感じて理解することも大切ですが、それと同じくらい「ATガイドってカッコいい」と思うようなプログラムになるのが理想かと思う。

・ATガイドという職業の認知拡大に向けて

野外活動、学校等での総合学習での出前講座があれば、ATガイドという職業の認知度も高まるのではないかと。

・プログラム参加機会の多様化(参加障壁の低減)

今回のプログラムは3泊4日であったが、参加者の参加しやすさを考えると、日帰りや短期間での体験ツアーがあっても良いのではないかと。

・高校生対象のATガイド模擬体験プログラムの実施

高校生を対象に、ATガイドの業務を模擬体験できるプログラムを開発し、実施することを提案する。具体的には、ATに関するテーマを設定し、参加者(高校生)自身がプログラムを企画・立案し、最終日にはお客様に対して模擬ガイドを実施する。

このプログラムを通して、参加者はガイド業務を体験することで、ATガイドという職業に対

する理解を深め、自己の適性や興味関心について深く考える機会を得られる。

また、修学旅行等の教育旅行プログラムの一環として、本プログラムを導入することで、より多くの高校生に AT ガイドという職業に触れる機会を提供し、将来のキャリアパス形成を支援することが可能となる。

近年、SDGs をテーマとした教育旅行プログラムが増加しており、その中で複数の体験プログラムを組み合わせる事例も見られる。本プログラムも、そのような教育旅行プログラムの一つとして、学習効果の向上に貢献できる可能性がある。

- 実際の AT ツアーへの参加機会の設定

今回のプログラムでは、野生動物観察や山登りなど、一部の AT アクティビティの体験機会の提供であったが、より多様な AT 体験ができると尚良いのではないか。例えば、実際の AT ツアーに参加することで、様々なガイドのスタイルや多様な AT アクティビティ（川下りなど）を体験し、AT ガイドに対する理解を深めることができる。今後は、トレイルブレイザーズのプログラム修了者を対象に、実際の AT ツアーへの参加を促進するなど、更なる AT 体験機会の提供を検討しても良いのではないか。

- 地域文化に触れる機会の提供による地域理解促進

自然体験に加えて、地域の文化に触れる機会を設けることで、参加者の地域への関心をより一層高めることができると考えられる。

- 参加者へのインセンティブ付与による効果

今回のプログラムでは、ピンバッジやパスポート、修了証の授与など、参加者が自身の成果を認められたと感じられるプログラム設計となっていた。このことは、参加者にとって他のプログラムと比較して当該プログラムがより本格的であると感じることができ、子供たちのモチベーションを高め、主体的な参加を促す上で非常に効果的であると感じた。

4. 事業総括

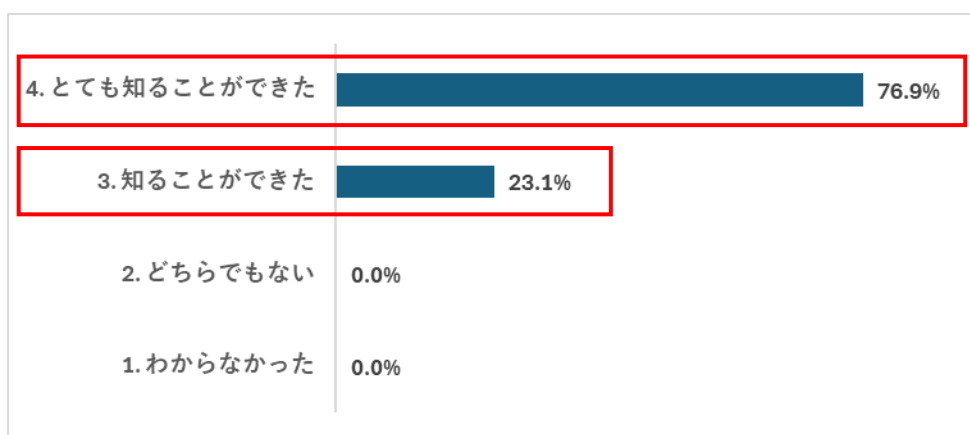
4-1. 事業総括

■ アンケート調査結果のまとめ

< 「AT に対する興味・関心」 及び 「AT ガイドという職業に対する意識変容」 に関して >

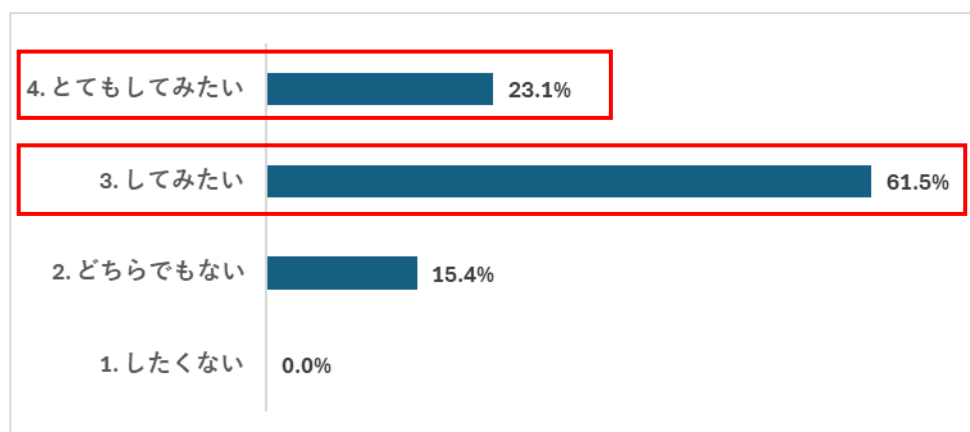
小学生のアンケート回答より

Q：この4日間の体験を通じて、アドベンチャートラベルガイドの仕事を知ることができましたか？ (n=13)



- AT ガイドの仕事の理解に関する質問に、「とても知ることができた」という回答が**最多**であった。

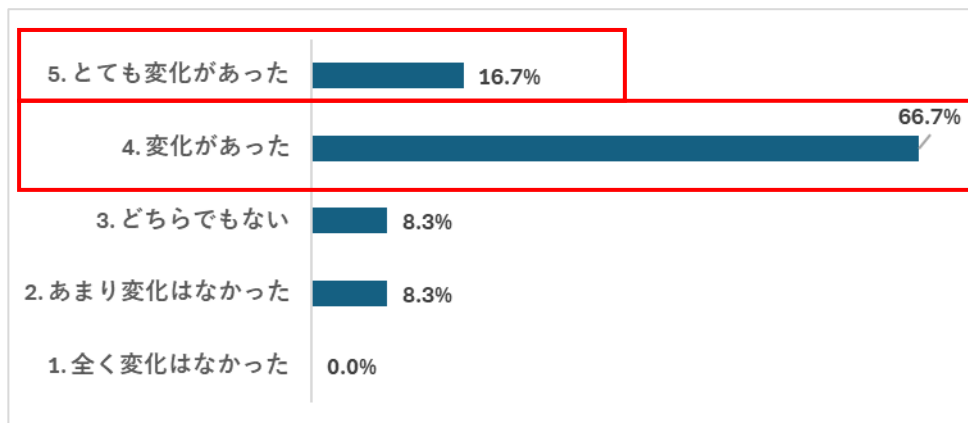
Q：この4日間の体験を通じて、アドベンチャートラベルガイドの仕事をしてみたいと思いましたが？ (n=13)



- AT ガイドという職業に対する関心の高まりを把握する質問に対し、「とてもしてみたい」(23.1%)、「してみたい」(61.5%)という回答が**全体の約85%**を占め、**参加者の大多数が関心を示した。**

保護者のアンケート回答より

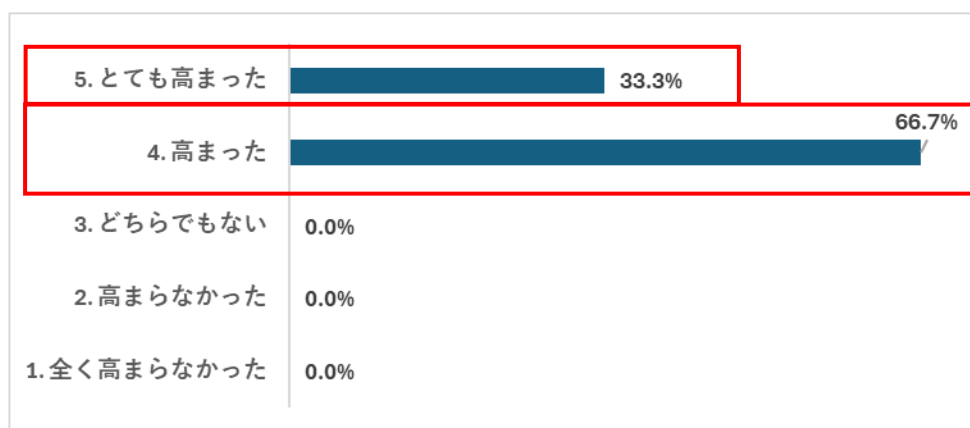
Q：本プログラム前後で、「アドベンチャートラベルガイド」という職業に対する意識の変化はありましたか？（n=12）



○ ATガイドという職業に対する意識の変化を聴く質問に対して、「とても変化があった」(16.7%)「変化があった」(66.7%)が全体の約83%を占め、参加者の大多数が意識の変化があったと回答した。

学生のアンケート回答より

Q：本プログラムに参加したことで、将来の職業選択肢の一つとして、あなたにとっての「アドベンチャートラベルガイド」という職業への魅力は高まりましたか？（n=3）



○ プログラムの企画運営に関わった3名の学生のうち、3名全員が、将来の職業選択肢の一つとして、ATガイドという職業の魅力が高まったと回答した。

<「今後のガイド人材確保に向けた効果的な施策」に関して>

保護者のアンケート回答より

Q：今後、子供たちが「アドベンチャートラベルガイド」という職業に興味関心を持つために、どのようなプログラムや取り組みがあると良いと思いますか？（n=12）

（主な回答）

| |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 子ども達がアドベンチャートラベルの要素を感じて理解することも大切ですが、それと同じくらい「<u>アドベンチャートラベルガイドってカッコいい</u>」と思うようなプログラムになるのが理想かと思えます。 ・ <u>滞在日数の短いプログラムなど、気軽に参加できるもの</u>もあると良いと思う。 ・ <u>高校生対象</u>に、ATに関するテーマで体験し学んで、自ら考えてプログラムを作り、最終日にお客さんに対してガイドをしてみるというような、<u>ATガイドを模擬体験するプログラム</u>。ガイド側の目線で考え、体験することにより、よりじぶんごととして、自分に合うか、なりたいと思えるかを考えるきっかけになると思います。修学旅行など、事前、事後学習もできる教育旅行プログラムのひとつとして、自走できると広がりが出ると思います。（SDGsをテーマにした教育旅行プログラムのひとつとして、1つの学校の修学旅行の中でも、複数グループに分かれて、複数の体験をする場合があるそうなので。） ・ <u>今回は冬のプログラムだったが、夏に行うプログラムがあったらまた違う体験ができて楽しそう</u>。また自然と合わせて文化の部分学ぶ時間があると、より地域のことに興味が湧くと思う。 |
|---|

学生のアンケート回答より

Q：「アドベンチャートラベルガイド」という職業選択にあたり、課題や不安だと感じることはありますか？また、その課題や不安を解消するためのご提案があればお聞かせください。

| | |
|----|---|
| 回答 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 「アドベンチャートラベルガイド」という職に着くには様々な知識が必要だと感じ、少しハードルは高いように感じました。 ・ 給料がどうなっているのか、自己プロデュースが大変そう、スキルを身につけるのが大変そう。 ・ 語学力が必要だと思うので、不安を感じる人が多いのかなと思います。 |
|----|---|

Q：「アドベンチャートラベルガイド」という職業が、職業選択を考える世代の若者に認知・選択されるために、今後どのようなプログラムや取り組みがあれば良いと思いますか？

| | |
|----|---|
| 回答 | <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>今回のプログラムのように実際に見て学んでもらうことが必要になる</u>と考えます。その中でも、自然に興味があるなど少しでも関心がある人たちに参加してもらうことが必要であると考えました。 ・ 今回のような取り組みや<u>対象を中高大学生にしたもの</u>を行う。 ・ 養成講習会のようなもの |
|----|---|

■まとめ

■事業成果

- ・小学生を対象としたAT体験プログラムにおいて、ATの認知度向上とATガイドへの興味関心の促進に一定の効果が見られた。
- ・アンケート結果から、参加した児童の保護者からは、冬季に限らず、夏季をはじめとする他季節においても同様のプログラムが実施されることを期待する意見や、ATガイドの魅力が強く印象に残るプログラム設計が望ましいとの意見が寄せられた。
- ・高校生を対象としたATガイド模擬体験プログラムを実施することで、職業理解を深め、将来の選択肢として検討する機会を提供できる可能性が示唆された。

■課題と今後の展望

- ・参加者の参加しやすさを考えると、日帰りや短期間での体験ツアーの提供などプログラム参加機会の多様化が必要である。
- ・ATガイドの認知度向上と職業選択における適切な情報提供を目的とした施策を展開する必要がある。具体的には、ATガイドと直接交流できる機会の提供、ウェブサイトやパンフレット、SNSなどを活用した情報発信が有効と考えられる。
- ・今後は対象年齢を拡大し、高校生年代への普及啓発活動を実施することが有効と考えられる。自然体験に加えて、地域の文化に触れる機会を設けることで、参加者の地域への関心をより一層高めることができると考えられる。

■結論

本事業は、ATガイド人材の裾野拡大に向けた有効な一歩となった。今後も、子供たちの地域理解・愛着向上、職業選択の志向性向上に繋がるよう、継続的に取り組んでいくことが望まれる。

以上